



設備用パッケージエアコン R410A（新冷媒）対応 室内ユニット

形名
標準タイプ

ASVP1120HA2
ASVP1400HA2
ASVP1600HA2

据付工事説明書（販売店・工事店様用）

本説明書は室内側ユニットの据付方法を記載してあります。
室外側ユニットの据付方法は、室外側ユニットの据付工事説明書に記載されております。

- この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。
据付けの前に、室外ユニット付属の説明書と併せて、本説明書を必ずお読みください。

もくじ	
安全のために必ず守ること	2
1. 据付場所の選定	9
1-1. 室内ユニットの質量に十分耐える強固な構造の床に据付けます。	9
1-2. 同梱部品	9
1-3. 一般市販部品	10
1-4. 一般市販部品の仕様	10
2. 製品の受け入れ	11
2-1. 搬入	11
2-2. 室内ユニットの設置	14
2-3. ブーリーの平行度・ベルト張り・軸受について	15
3. ドレン配管（室内ユニット）	16
4. 冷媒配管・ドレン配管仕様	17
4-1. 断熱工事	17
4-2. 冷媒配管・ドレン配管サイズ	17
4-3. 冷媒配管・ドレン配管位置	18
4-4. 配管接続方法	19
5. 電気配線	27
5-1. 電源配線	28
5-2. 電気配線接続	29
5-3. リモコン・室内外伝送線・温度センサーの接続	31
5-4. アドレス設定	32
5-5. 本体内蔵センサー以外で室温を検知する場合	32
5-6. 送風機制御について	32
5-7. システム接続例	33
6. 試運転	35
6-1. 試運転前の確認事項	35
6-2. 試運転方法	35
6-3. 試運転不具合時の対応	36
7. ダクト接続の設置に関するご注意	37
8. 高圧ガス明細書	37

フロン排出抑制法 第一種特定製品

- 1) フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
- 2) この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。
- 3) 冷媒の種類及び GWP（地球温暖化係数）は室内ユニットの定格銘板に記載されています。
冷媒の数量は室外ユニットの定格銘板あるいはユニット内部の冷媒容量記入ラベルに記載されています。
- 4) 冷媒を追加充填した場合やサービスで冷媒を入れ替えた場合には室外ユニット内部の冷媒量記入ラベルに必要な事項を必ず記入してください。



据付工事説明書内で、安全のために必ず守っていただく項目を **⚠警告 ⚠注意** の形で記載しました。

安全のために必ず守ること

- ◆この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、据付けてください。
- ◆ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。



警告

取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度



注意

取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- ◆図記号の意味は次のとおりです。



(一般禁止)



(接触禁止)



(水ぬれ禁止)



(ぬれ手禁止)



(一般注意)



(発火注意)



(破裂注意)



(感電注意)



(高温注意)



(回転物注意)



(一般指示)



(アース線を必ず接続せよ)

- ◆お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- ◆お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。



警告

電気配線工事は「第一種電気工事士」の資格のある者が行うこと。

気密試験は「第一種冷凍機械責任者免状または第一種冷凍空調技士資格の所持者」が行うこと。

ろう付け作業は、冷凍空気調和機器施工技能士（１級及び２級に限る。）又はガス溶接技能講習を修了した者、その他厚生労働大臣が定めた者が行うこと。

一般事項



警告

当社指定の冷媒以外は絶対に封入しないこと。

- ◆使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災のおそれあり。
- ◆法令違反のおそれあり。

封入冷媒の種類は、機器付属の説明書・銘板に記載し指定しています。

指定冷媒以外を封入した場合、故障・誤作動などの不具合・事故に関して当社は一切責任を負いません。



禁止

特殊環境では、使用しないこと。

- ◆油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食による冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

安全装置・保護装置の改造や設定変更をしないこと。

- ◆圧力開閉器・温度開閉器などの保護装置を短絡して強制的に運転を行った場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。
- ◆設定値を変更して使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。
- ◆当社指定品以外のものを使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。



変更禁止

ユニットの据付・点検・修理をする前に周囲の安全を確認し、子どもを近づけないこと。

- ◆工具などが落下すると、けがのおそれあり。



禁止

改造はしないこと。

- ◆冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

ヒューズ交換時は、指定容量のヒューズを使用し、針金・銅線で代用しないこと。

- ◆ 発火・火災のおそれあり。



使用禁止

ユニットを水・液体で洗わないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

電気部品に水をかけないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- ◆ 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

アルコール消毒した場合、周囲に充填するアルコールガスを換気して取り除くこと。

- ◆ ガスを取り除かずに電源を入れた場合、引火・爆発するおそれあり。
(本製品は防爆仕様ではありません)



爆発注意

冷媒回路内に冷媒ガス・油を封入した状態で操作弁を閉め、封止状態を作らないこと。

- ◆ 破裂・爆発のおそれあり。



破裂注意

掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、主電源を切ること。

- ◆ けが・感電のおそれあり。
◆ ファン・回転機器により、けがのおそれあり。



感電注意

運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。

- ◆ 冷媒は、循環過程で低温または高温になるため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。



やけど注意

運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触れないこと。

- ◆ 火傷のおそれあり。



やけど注意

換気をよくすること。

- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
◆ 冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。



換気を実行

換気をよくすること。

- ◆ 燃焼器具を使用した場合、不完全燃焼を起こし、酸素欠乏・一酸化炭素中毒のおそれあり。



換気を実行

異常時（こげ臭いなど）は、運転を停止して電源スイッチを切ること。

- ◆ お買い上げの販売店・お客様相談窓口にご連絡すること。
◆ 異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

端子箱や制御箱のカバーまたはパネルを取り付けること。

- ◆ ほこり・水による感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

基礎・据付台が傷んでいないか定期的に点検すること。

- ◆ ユニットの転倒・落下によるけがのおそれあり。



指示を実行

ユニットの廃棄は、専門業者に依頼すること。

- ◆ ユニット内に充てんした油や冷媒を取り除いて廃棄しないと、環境破壊・火災・爆発のおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

コントローラの近くに可燃物を置いたり、可燃性スプレーを使用したりしないこと。

- ◆ 引火・火災・爆発のおそれあり。



使用禁止

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- ◆ 回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。



使用禁止

ユニットの上に乗ったり物を載せたりしないこと。

- ◆ ユニットの転倒や載せたものの落下によるけがのおそれあり。



使用禁止

食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しないこと。

- ◆ 保存品が品質低下するおそれあり。



使用禁止

運転停止後、すぐにユニットの電源を切らないこと。

- ◆ 運転停止から5分以上待つこと。
◆ ユニットが故障し、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



禁止

ぬれて困るものを下に置かないこと。

- ◆ユニットからの露落ちにより、ぬれるおそれあり。



据付禁止

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ◆けがのおそれあり。



接触禁止

水の入った容器を製品などの上に載せないこと。

- ◆水がこぼれた場合、ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

保護具を身に付けて操作すること。

- ◆主電源を切っても数分間は充電された電気が残っている。触れると感電のおそれあり。



感電注意

電気部品を触るときは、保護具を身に付けること。

- ◆高温部に触れると、火傷のおそれあり。
- ◆高電圧部に触れると、感電のおそれあり。



けが注意

空気の吹出口や吸込口に指や棒などを入れないこと。

- ◆ファンによるけがのおそれあり。



回転物注意

作業するときは保護具を身につけること。

- ◆けがのおそれあり。



けが注意

ユニット内の冷媒は回収すること。

- ◆冷媒は再利用するか、処理業者に依頼して廃棄すること。
- ◆大気に放出すると、環境破壊のおそれあり。



指示を実行

販売店または専門業者が定期的に点検すること。

- ◆ユニットの内部にゴミ・ほこりがたまった場合、ドレン排水経路が詰まり、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。
- ◆においが発生するおそれあり。



指示を実行

水回路の温度が0℃以下になるところに加湿器を設置しないこと。

- ◆水回路凍結によりユニットが損傷するおそれあり。
- ◆水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



指示を実行

運搬・据付工事をするときに

警告

搬入を行う場合、ユニットの指定位置にて吊下げる。また、横ずれしないよう固定し、四点支持で行うこと。

- ◆三点支持で運搬・吊下げをした場合、不安定になり、ユニットが転倒・落下し、けがのおそれあり。



運搬注意

注意

梱包に使用している PP バンドを持って運搬しないこと。

- ◆けがのおそれあり。



運搬禁止

20kg 以上の製品の運搬は、1 人でしないこと。

- ◆けがのおそれあり。



運搬禁止

据付工事をするときに

警告

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところにユニットを設置しないこと。

- ◆可燃性ガスがユニットの周囲にたまると、火災・爆発のおそれあり。



据付禁止

専門業者以外の人に触れるおそれがあるところにユニットを設置しないこと。

- ◆ユニットに触れた場合、けがのおそれあり。



据付禁止

梱包材は廃棄すること。

- ◆けがのおそれあり。



指示を実行

梱包材は破棄すること。

- ◆窒息事故のおそれあり。



指示を実行

販売店または専門業者が据付工事説明書に従って据付工事を行うこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

付属品の装着や取り外しを行うこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒が漏れ、酸素欠乏・発煙・発火のおそれあり。



指示を実行

冷媒が漏れた場合の限界濃度対策を行うこと。

- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。(ガス漏れ検知器の設置をすすめます。)



指示を実行

販売店または専門業者が当社指定の別売品を取り付けること。

- ◆ 不備がある場合、水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

ぬれて困るものの上に据付けないこと。

- ◆ ユニットからドレンが出るため、必要に応じて集中排水工事をする。



据付禁止

ぬれて困るものの上に据付けないこと。

- ◆ 湿度が 80%を超える場合や、ドレン出口が詰まっている場合、室内ユニットからの露落ちにより、天井・床がぬれるおそれあり。



据付禁止

強風・地震に備え、所定の据付工事を行うこと。

- ◆ 不備がある場合、ユニットが転倒・落下し、けがのおそれあり。



指示を実行

ユニットは水準器などを使用して、水平に据付けること。

- ◆ 据付けたユニットに傾斜がある場合、ユニットが転倒し、けがのおそれあり。水漏れのおそれあり。



指示を実行

ユニットの質量に耐えられるところに据付けること。

- ◆ 強度不足や取り付けに不備がある場合、ユニットが転倒・落下し、けがのおそれあり。



指示を実行

配管・配線取出口の開閉部は、塞ぐこと。

- ◆ 小動物・雪・雨水が内部に入り、機器が損傷・故障すると、漏電・感電のおそれあり。



感電注意

販売店または専門業者が据付工事説明書に従って排水工事を行うこと。

- ◆ 不備がある場合、雨水・ドレンなどが屋内に浸水し、家財・周囲がぬれるおそれあり。



指示を実行

ユニットは水準器などを使用して、水平に据付けること。

- ◆ 据付けたユニットに傾斜がある場合、ドレン漏れのおそれあり。



指示を実行

配管工事をするときに

⚠ 警告

サービスバルブを操作する場合、冷媒噴出に注意すること。

- ◆ 冷媒が漏れた場合、冷媒を浴びると、凍傷・けがのおそれあり。
- ◆ 冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。



冷媒注意

使用できる配管の肉厚は、使用冷媒・配管径・配管の材質によって異なる。配管の肉厚が適合していることを確認し、使用すること。

- ◆ 不適合品を使用した場合、配管が損傷し、冷媒が漏れ、酸素欠乏のおそれあり。



破裂注意

冷媒回路は、真空ポンプによる真空引き乾燥を行うこと。冷媒による冷媒置換をしないこと。

- ◆ 指定外の気体が混入した場合、破裂・爆発のおそれあり。



爆発注意

加圧ガスに塩素系冷媒・酸素・可燃ガスを使用しないこと。

- ◆ 使用した場合、爆発のおそれあり。
- ◆ 塩素により冷凍機油劣化のおそれあり。



爆発注意

冷媒回路内にガスを封入した状態で加熱しないこと。

- ◆ 加熱した場合、ユニットが破裂・爆発のおそれあり。



爆発注意

フレア接続は、操作弁付属の穴付きフレアナットを使用すること。

- ◆ 付属以外のフレアナットを使用した場合、冷媒が漏れ、酸素欠乏のおそれあり。



指示を実行

冷媒が漏れていないことを確認すること。

- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
- ◆ 冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。



指示を実行

配管接続部の断熱は気密試験後に行うこと。

- ◆ 断熱材をつけた状態で気密試験を行うと冷媒漏れを検知できず、酸素欠乏のおそれあり。



指示を実行

現地配管が部品端面に触れないこと。

- ◆ 配管が損傷し、冷媒が漏れ、酸素欠乏のおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

ドレン配管はドレントラップの上流で合流しないこと。

- ◆ 不備がある場合、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



合流禁止

冷媒回路内に、指定の冷媒 (R410A) 以外の物質 (空気など) を混入しないこと。

- ◆ 指定外の気体が混入した場合、異常な圧力上昇による破裂・爆発のおそれあり。



爆発注意

販売店または専門業者が据付工事説明書に従ってドレン配管工事を行うこと。

- ◆ 水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



指示を実行

ドレン水が排水できることを確認すること。

- ◆ 不備がある場合、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



指示を実行

ドレン配管は断熱すること。

- ◆ 不備がある場合、露落ちにより天井・床がぬれるおそれあり。



指示を実行

配管は断熱すること。

- ◆ 結露により、天井・床がぬれるおそれあり。



指示を実行

コーキングをすること。

- ◆ 不備がある場合、床がぬれるおそれあり。



指示を実行

電気工事をするときに

⚠ 警告

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

電気工事をする前に、主電源を切ること。

- ◆ けが・感電のおそれあり。



感電注意

電気工事は第一種電気工事士の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電源には漏電遮断器を取り付けること。

- ◆ 漏電遮断器はユニット1台につき1個設置すること。
- ◆ 取り付けない場合、感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器＜開閉器＋B種ヒューズ＞・配線用遮断器）を使用すること。

- ◆ 大きな容量のブレーカーを使用した場合、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- ◆ 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

C・D種接地工事（アース工事）は第一種電気工事士の資格のある電気工事業者が行うこと。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。

- ◆ 感電・ノイズによる誤動作・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。



アース接続

⚠ 注意

配線が冷媒配管・部品端面に触れないこと。

- ◆ 配線が接触した場合、漏電・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子台に配線の切くずが入らないようにすること。

- ◆ ショート・感電・故障のおそれあり。



感電注意

移設・修理をするときに

⚠ 警告

改造はしないこと。ユニットの移設・分解・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

- ◆ 冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

分解・修理をした場合、部品を元通り取り付けること。

- ◆ 不備がある場合、けが・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

基板に手・工具で触れたり、ほこりを付着させたりしないこと。

- ◆ ショート・感電・故障・火災のおそれあり。



接触禁止

点検・修理時は、配管支持部材・断熱材の状態を確認し劣化しているものは補修または交換すること。

- ◆ 冷媒漏れ・水漏れのおそれあり。



指示を実行

お願い

据付・点検・修理をする場合、適切な工具を使用してください。

- ・工具が適切でない場合、機器損傷のおそれあり。

運転を開始する 12 時間以上前に電源を入れてください。

- ・ユニット運転期間中は電源を切らないこと。故障のおそれあり。

ユニットの使用範囲を守ってください。

- ・範囲外で使用了した場合、故障のおそれあり。

吹出口・吸込口を塞がないでください。

- ・風の流れを妨げた場合、能力低下・故障のおそれあり。

エアフィルターを外した状態で運転しないでください。

- ・ユニット内部にゴミが詰まり、故障のおそれあり。

R410A 以外の冷媒は使用しないでください。

- ・R410A 以外の R22 など塩素が含まれる冷媒をを使用した場合、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

天井内配管・埋設配管の接続部には点検口を設けてください。

- ・点検できないおそれあり。

コントローラを病院・通信・放送設備がある所に据え付ける場合は、ノイズ対策を行ってください。

- ・ノイズにより医療機器に悪影響を与え、医療行為を妨げるおそれあり。
- ・ノイズにより映像放送の乱れ・雑音が生じるおそれあり。
- ・インバーター機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響によるコントローラの故障・誤動作のおそれあり。

現地配管への冷媒充てんが完了するまでは、ユニットのバルブを開けないでください。

- ・冷媒充てんが完了する前にバルブを開けた場合、ユニット損傷のおそれあり。

下記に示す工具類のうち、旧冷媒 (R22) に使用していたものは使用しないこと。R410A 専用の工具類を使用してください。(ゲージマニホールド・チャージングホース・ガス漏れ検知器・逆流防止器・冷媒チャージ用口金・真空度計・冷媒回収装置)

- ・R410A は冷媒中に塩素を含まないため、旧冷媒用ガス漏れ検知器には反応しない。
- ・旧冷媒・冷凍機油・水分が混入すると、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

逆流防止付きの真空ポンプを使用してください。

- ・冷媒回路内に真空ポンプの油が逆流した場合は、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

工具類の管理は注意してください。

- ・チャージングホース・フレア加工具にほこり・ゴミ・水分が付着した場合、冷媒回路内に混入し、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

冷媒配管は JIS H3300「銅及び銅合金継目無管」の C1220 のリン脱酸銅を、配管継手は JIS B 8607 に適合したものを使用してください。配管・継手の内面・外面ともに硫黄・酸化物・ゴミ・切粉・油脂・水分が付着していないことを確認してください。

- ・冷凍機油劣化・圧縮機故障のおそれあり。

配管は屋内に保管し、ろう付け・フレア接続する直前まで両端を密封しておいてください。継手はビニール袋に包んで保管してください。

- ・冷媒回路内にほこり・ゴミ・水分が混入した場合、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

フレア・フランジ接続部に、冷凍機油 (エステル油・エーテル油・少量のアルキルベンゼンのいずれか) を塗布してください。

- ・塗布する冷凍機油に鉱油を使用し、多量に混入した場合、冷凍機油劣化・圧縮機故障のおそれあり。

窒素置換による無酸化ろう付けをしてください。

- ・冷媒配管の内部に酸化皮膜が付着した場合、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

既設の冷媒配管を流用しないでください。

- ・既設の配管内部には、古い冷凍機油や冷媒中の塩素が大量に残留しており、これらの物質による新しい機器の冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

液冷媒で封入してください。

- ・ガス冷媒で封入した場合、ボンベ内冷媒の組成が変化し、能力低下のおそれあり。

チャージングシリンダを使用しないでください。

- ・冷媒の組成が変化し、能力低下のおそれあり。

冷媒を追加する場合、適正量を充てんしてください。

- ・追加冷媒充てん量は、該当の項を参照のこと。
- ・液冷媒を封入すること。
- ・冷媒が過不足した場合、能力低下・異常停止のおそれあり。

電源配線には専用回路を使用してください。

- ・使用しない場合、電源容量不足のおそれあり。

設備の重要度により電源系統を分割するか漏電遮断器・配線用遮断器の保護協調を取ってください。

- ・製品側の遮断器と上位の遮断器が共に作動するおそれあり。

ユニットの故障が重大な影響を及ぼすおそれがある場合、バックアップの系統を準備ください。

- ・複数の系統にすること。

1. 据付場所の選定

- ・吹出空気が部屋全体に行き渡るところ。
- ・侵入外気の影響のないところ。
- ・吹出空気、吸込空気の流れに障害物のないところ。
- ・油の飛沫や蒸気のないところ。
- ・可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれのないところ。
- ・高周波を発生する機械のないところ。
- ・吹出口側に火災報知器（センサー部）が位置しないようにしてください。
（暖房運転時に吹出温風により火災報知器が誤作動するおそれがあります。）
- ・酸性の溶液などを頻繁に使用するところは避けてください。
- ・特殊なスプレー（イオウ系）などを頻繁に使用するところは避けてください。
- ・腐食ガス、有機溶剤の雰囲気での使用は避けてください。
- ・高温多湿雰囲気（露点温度 23℃以上）で長時間運転されますと、室内ユニットに結露する場合があります。
そのような条件で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの表面全てに断熱材（10～20mm）を追加し、結露しないようにしてください。
- ・室内ユニットを機械室に据付けてダクト接続した場合、機械室内が高温多湿雰囲気になりますと、室内ユニットに結露する場合があります。
このような場合は、機械室内の空気と室内空気を循環させるなどして、機械室内の温度、湿度を低下させてください。
- ・設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気口等を設けてください。
- ・粉や蒸気が多量に発生するところは避けてください。
- ・海浜地区等塩分の多いところは避けてください。
- ・温泉地などの硫化（イオウ系）ガスの発生するところは避けてください。
- ・炎の近くや溶接時のスパッターなど火の粉が飛び散るところは避けてください。
- ・室内ユニットは必ず水平に据付けてください。水たれなどの原因となります。
- ・病院・通信事業所などに据付けされる場合は、ノイズ発生源を遮断して施工してください。

1-1. 室内ユニットの質量に十分耐える強固な構造の床に据付けます。

⚠ 警告

ユニットの質量に耐えられるところに据付けること。

- ・強度不足や取り付けに不備がある場合、ユニットが転倒・落下し、けがのおそれあり。



指示を実行

- ・設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気孔等を設けてください。

1-2. 同梱部品

室内ユニット付属品の確認

本ユニットには、以下部品が付属されていますので据付前に確認してください。

ASVP1120・1400HA2 の場合

付属品	個数
① ゴツキタツピンネジ M5 × 14	10
② ゴツキタツピンネジ M5 × 20	5
③ ガス側 L 字配管 No.1	1
④ 液側付属配管 No.1	1

ASVP1600HA2 の場合

付属品	個数
① ゴツキタツピンネジ M5 × 14	10
② ゴツキタツピンネジ M5 × 20	5
③ ガス側 L 字配管 No.1	1
④ ガス側 L 字配管 No.2	1
⑤ 液側 L 字配管 No.1	1
⑥ 液側 L 字配管 No.2	1

1-3. 一般市販部品

部品仕様の詳細は「1-4. 一般市販部品の仕様」参照

No.	部材	仕様
1	電源配線	相当長さ 線種：VCT、VVF、VVR またはこれらに相当するもの 線径：「5-1. 電源配線」参照
2	アース用配線	
3	伝送用配線	相当長さ シールド線 線種：CVVS、CPEVS、MVVS またはこれらに相当するもの 線径：1.25mm ² 以上
4	スリーブ付き丸端子	相当数 電源線用：M8 ねじ アース線用：M5 ねじ
5	配線用工事部材 (制御配線 / 電気配線)	過電流遮断器、漏電遮断器、手元開閉器、配線用遮断器
6	冷媒配管	JIS H3300「銅及び銅合金継目無管」のC1220のリン脱酸銅
7	配管用工事部材	ろう材 (JIS 指定)、フラックス、断熱材、仕上りテープ、 窒素ガス漏れ確認用泡剤 (ギュッポフレックスなど)
8	ドレン配管	
9	据付用工事部材	

1-4. 一般市販部品の仕様

1-4-1. 冷媒配管

- 冷媒配管サイズは下表のとおりです。配管長はできるだけ短く、高低差ベンド数はできる限り少なく施工してください。

項目 \ 形名		P1120 形	P1400 形	P1600 形
冷媒配管	液管	φ 19.05 × 1.0 t (1/2H 材または H 材)	φ 19.05 × 1.0 t (1/2H 材または H 材)	φ 19.05 × 1.0 t × 2 (1/2H 材または H 材)
	ガス管	φ 38.1 × 1.35 t (1/2H 材または H 材)	φ 38.1 × 1.35 t (1/2H 材または H 材)	φ 31.75 × 1.1 t × 2 (1/2H 材または H 材)
ドレン管		R1 1/4 接続 φ 42.7 鋼管 VP30		

- 塩ビ管接続の場合、接続用ソケットは現地手配願います。
- 本ユニットは冷媒に R410A 使用のため、φ 19.05 以上の配管については O 材では耐圧不足となります。
必ず 1/2H 材または H 材を使用してください。
- 冷媒配管は JIS H 3300「銅及び銅合金継目無管」の C1220 のりん脱酸銅、配管継手は JIS B 8607 に適合したものを使用してください。また管及び継手の内外面は美麗であり、使用上有害なイオウ、酸化物、ゴミ、切粉など（コンタミネーション）の付着がないことを確認してください。

1-4-2. ろう材

ろう材は JIS 指定の良質品を使用してください。
亜硫酸ガス濃度が高いなど、腐食性雰囲気では「銀ろう」にしてください。
低温ろうは強度が弱いので使わないでください。

1-4-3. 伝送線

現地伝送線は、下表に示す伝送線を使用してください。

配線の種類	種類	シールド線 CVVS・CPEVS・MVVS
	線数	2 心ケーブル
	線径	1.25mm ² 以上

1-4-4. 電気配線

電気配線は「5. 電気配線」参照

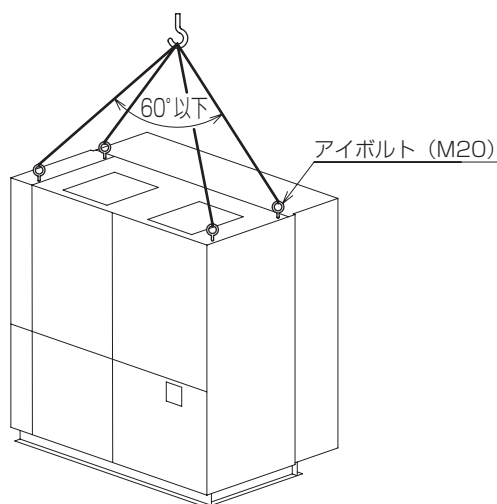
2. 製品の受け入れ

仕様書又は出荷案内書と照合し、部品の不足はないか輸送中の損傷はないかなど現品をよく調べてください。不足や損傷があれば代理店又は最寄りの当社支社へご連絡ください。

2-1. 搬入

(1) 製品吊下げ方法と製品質量

- アイボルト（現地手配：M20）4本を図示の位置に取付け、ロープを確実に引掛けてください。
- ロープ掛けの角度は下図のように60°以下にしてください。



※ ロープは必ず4カ所吊りとし、製品に衝撃を与えないようにしてください。

※ 製品の外形寸法および重心位置は設計・工事マニュアルをご参照ください。

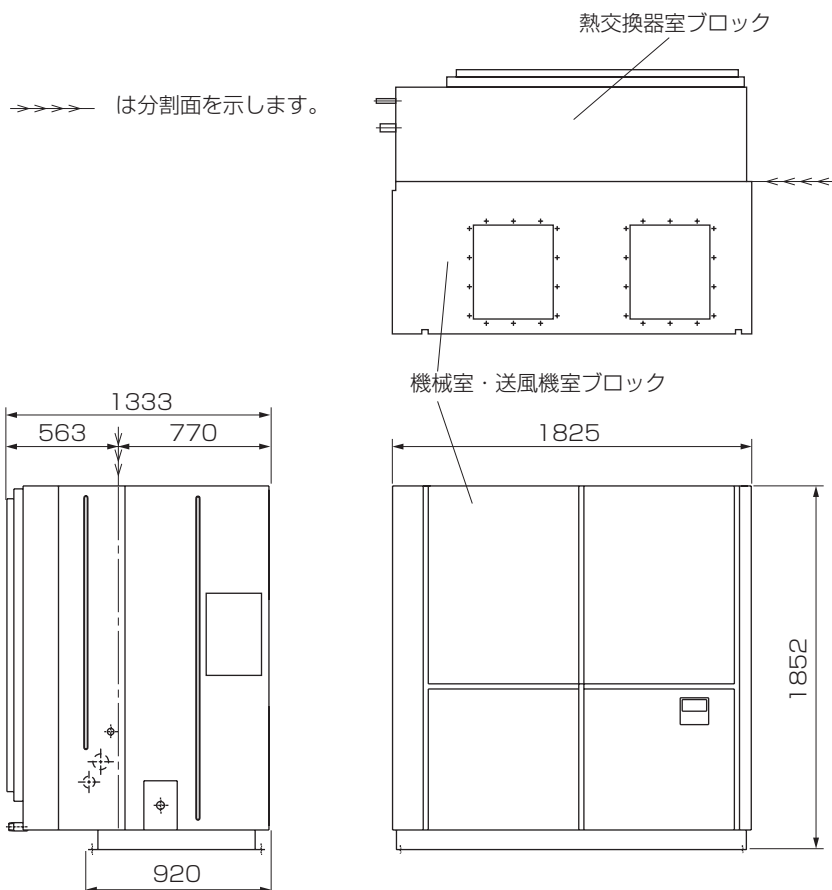
製品質量

形 名	(kg)
P1120 形	608
P1400 形	668
P1600 形	720

(2) 室内ユニットの分割搬入

室内ユニットは機械室・送風機室ブロックと熱交換器室ブロックに分割可能です。分割の際は、ユニットを水平な場所に設置後実施してください。

< P1120 形の場合 >



熱交換器室ブロック質量

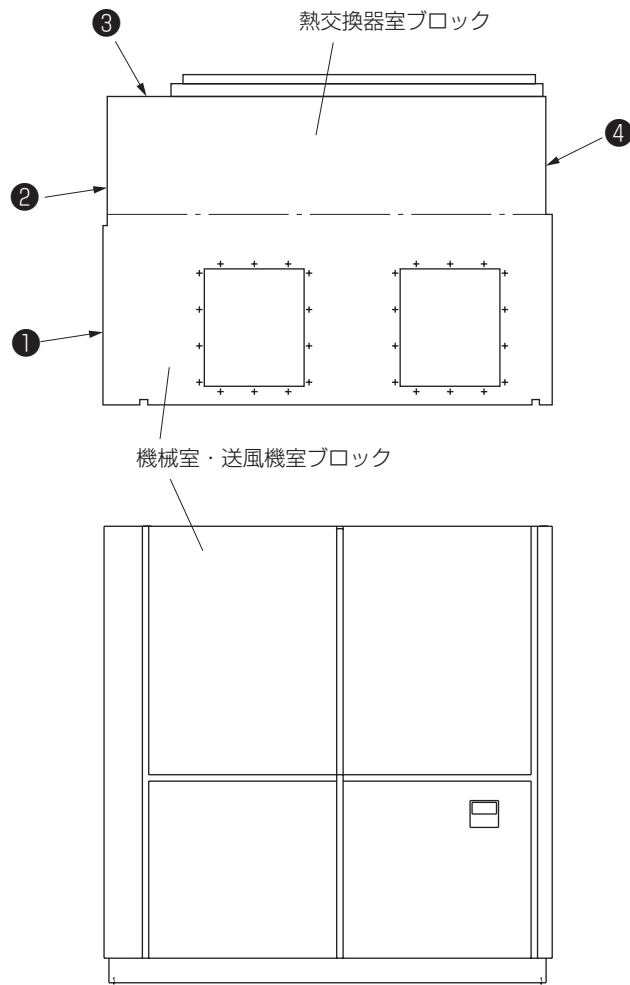
	質量 (kg)
P1120 形	180
P1400 形	200
P1600 形	222

機械室・送風機室ブロック質量

	質量 (kg)
P1120 形	428
P1400 形	468
P1600 形	498

分割は下記手順にて実施ください。

1) 外装パネル ① ～ ④ を順に外してください。



2) 次の手順で熱交換器とドレンパンを取外してください。ユニット背面から見た図を次ページ（背面図）に示します。

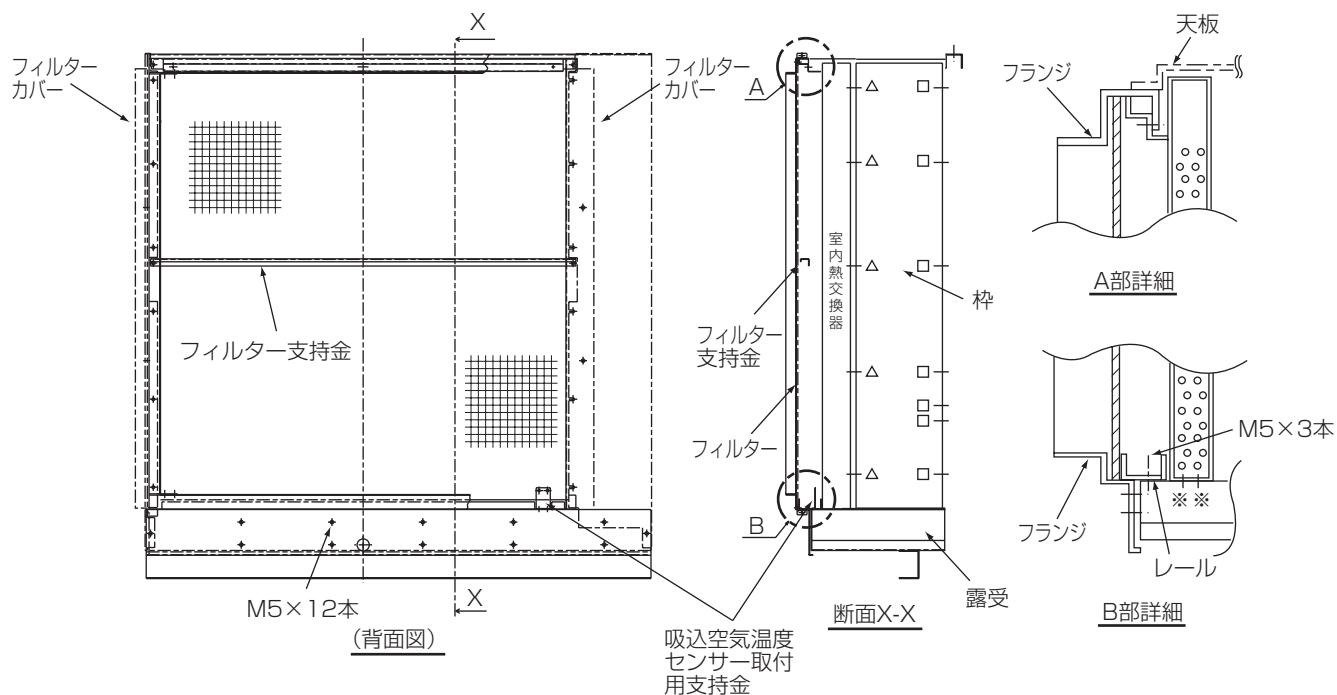
- a. 左右のフィルターカバーを外して（蝶ボルト左右各 4 本）、フィルターを取外してください。
- b. 熱交換器下部にある吸込空気温度センサーの取付用支持金をセンサーを付けたまま外してください。
- c. ユニット下部のドレンパンとフランジを固定している止メネジ（M5 × 12 本）を外して、フランジ全体をユニット本体から分離してください。また、ドレンパンとレールを固定している止メネジ（M5 × 3 本）を外してドレンパンから分離してください。
フィルター支持金を外してください。
- d. 熱交換器に付属の LEV リード線・配管温度センサーのリード線を、コネクター接続部で外してください。
再取付時は LEV・センサーの番号を合わせて元通り接続してください。
- e. ドレンパンと熱交換器を固定しているボルト（M8 × 左右各 2 本 次ページ（背面図）※印）を外してください。
熱交換器と枠を固定している止メネジ（M5 × 左右各 5 本 次ページ（背面図）△印）を外して、熱交換器を外してください。

熱交換器のみの質量

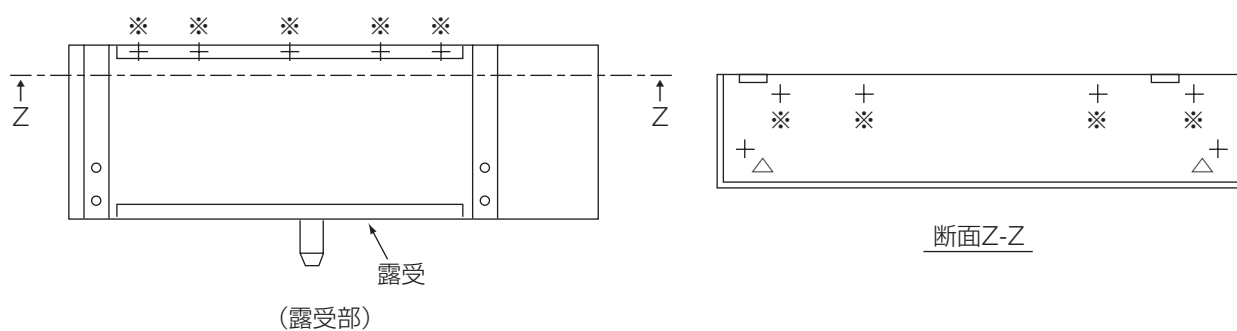
P1120 形	P1400 形	P1600 形
66kg	69kg	81kg

熱交換器を外すときには、フィン部を損傷しないように保護してください。また、熱交換器を吊る場合には熱交換器の左右側板上部の穴を利用してください。

- f. ユニット本体と枠を固定している止メネジ（M5 × 左右各 7 本 次ページ（背面図）□印）を外して枠を分離してください。



- 3) 熱交換器と枠を外した後の露受け部を上から見た図を下図（露受部）に示します。
露受けと本体を固定しているボルト（M8 × 2 本 下図（露受部）△印）と止メネジ（M5 × 9 本 下図（露受部）※印）を外して、露受けを分離してください。



以上で分割完了です。搬入時に破損・キズが付かないように注意してください。
特に、熱交換器移動の際は、フィンおよび伝熱管の破損防止のため衝撃を与えないように注意してください。

- 4) 再組立は、分割時と逆の手順で実施してください。
外した止メネジ、ボルトは、締め忘れ、締付不足のないように実施ください。また、外したセンサーは、所定の位置に戻してください。
- 5) 分割時、搬入時にはユニットを歪ませるような荷重をかけないようにしてください。
搬入、再組立後に送風機（プーリー・ファン・ベアリング）部のセットネジに緩み、また V ベルトの芯ズレや歪みがないか確認してください。
- 6) 試運転時の確認
- ・ 試運転後、異常振動、ビビリ音、水漏れの発生がないか確認ください。

2-2. 室内ユニットの設置

⚠ 警告

ユニットの質量に耐えられるところに据付けること。

- 強度不足や取り付けに不備がある場合、ユニットが転倒・落下し、けがのおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

ユニットは水準器などを使用して、水平に据付けること。

- 据付けたユニットに傾斜がある場合、ユニットが転倒し、けがのおそれあり。水漏れのおそれあり。



指示を実行

- ① ユニットの設置する場合には、コンクリートなど製品重量に十分耐えうる基礎の上に図 1、2 に示すようにユニットを載せてください。また、基礎は床面より 100mm 以上高くし、水平度を取ってください。(基礎がしっかりしていませんと、振動発生の原因となります。)

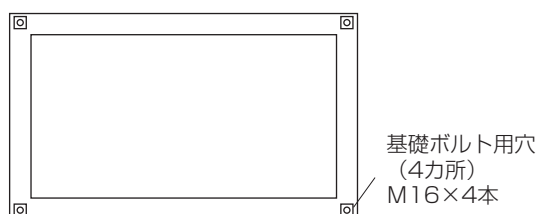


図 1 基礎図

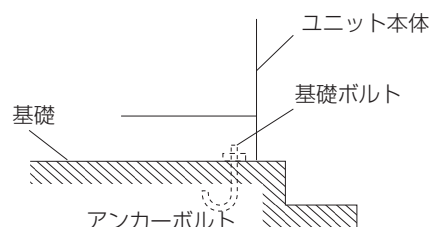
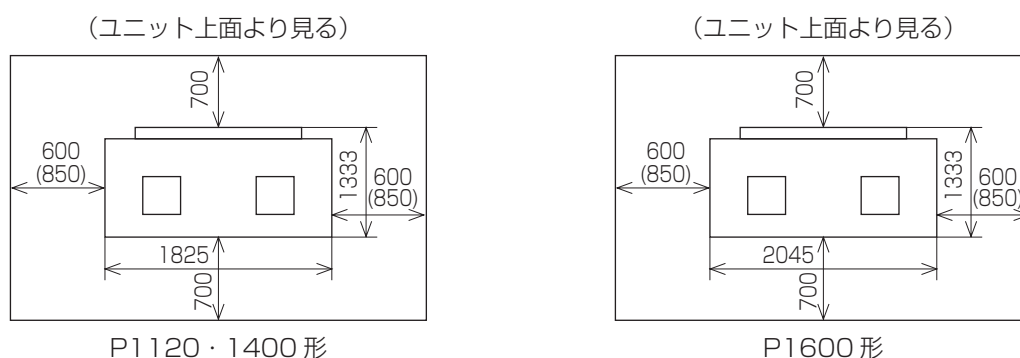


図 2 アンカーボルト設置図

- ② 保守・点検、エアフィルター抜き出し、配管・配線作業が容易にできるように、また、後面吸込口の風路がふさがれないように図 3 に示したスペースを必ず確保してください。



注：() 寸法は送風機軸の引出しスペースです。

図 3 サービススペース

冷媒配管工事については、室外ユニット添付の「据付工事説明書」を参照してください。

プーリー平行度・ベルト張り 確認のお願い

据付時には、プーリー平行度とベルト張り状態を確認してください。

(15 ページ 2-3 項の「[1] プーリーの平行度・ベルト張りについて」を参照ください。)

※ プーリー平行度やベルト張り状態が適切でないと異常音発生など、不具合の原因となります。

2-3. プーリーの平行度・ベルト張り・軸受について

[1] プーリーの平行度・ベルト張りについて

- ① ファンプーリーと電動機プーリーの平行度は図 4、表 1 の規格を満足するようにセットしてください。
- ・ 平行度は、プーリーの側面に定規等を当てて確認してください。
 - ・ 平行度の調整のためにプーリー止めネジをゆるめて、再度止めネジを固定する場合は、はずれ防止のためにネジにネジロック（ThreeBond 1322N 相当品：現地手配）を塗布し、13.5N・m のトルクで締め付けてください。
- ② ベルト一本当りの張力はたわみ量 L の値を下式にて計算し、その時のたわみ荷重 W が表 2 の範囲内になるようにセットしてください。
- $L = 0.016 \times C$ C : プーリーの軸間距離 (mm)
- ③ ベルトがプーリーになじんだ後、(運転後 24 ～ 28 時間以後) ② 項の適正張りに調整するようにしてください。
また、新しいベルトの場合は、たわみ荷重 W の約 1.15 倍程度に調整するようにしてください。
- ④ ③ 項の初期伸び調整の後、2000 時間ごとに張り再調整を行ってください。
[V ベルトは初期のび (約 1%) を含め、ベルト周長が約 2% のびた時点で寿命です。(運転時間で約 5000 時間)]

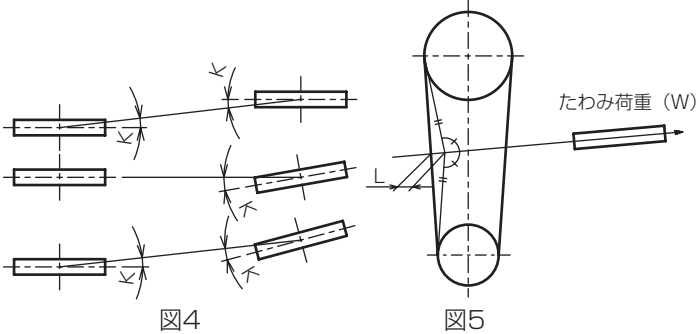
表 1

プーリー	平行度	K (分)	備 考
鋳鉄製プーリー		10 以下	1 m 当たり 3 mm のずれに相当

表 2

	モータープーリー (PC φ)	ファンプーリー (PC φ)	V ベルト (2 本)	たわみ荷重 W (N / 本) 50Hz/60Hz
P1120	160	355	B93	29/25
P1400	165	355	C91	42/37
P1600	165	355	C91	42/37

※ 上記静風圧部品以外での組合せのベルトたわみ荷重の値はマニュアル等を参照ください。



[2] 送風機軸受について

送風機軸受は、2000 時間ごとにグリスの給油が必要です。グリスの給油は軸受に設けられた給油口 (図 6) よりグリスガンにて行ってください。
推奨グリス「昭和シェル アルバニア No.3」を使ってください。

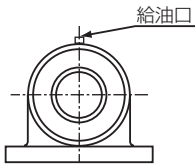


図6 軸受

3. ドレン配管（室内ユニット）

- ドレン配管は、ユニット後側（空気コイル側）下にあります。ドレン配管から空気の吸込みを防止するため、下図のようなドレンラップを必ず設けてください。（図 7 参照）図 7 の h 寸法は、ユニット内の負圧＜機内抵抗＋吸込ダクト抵抗＞により決定してください。

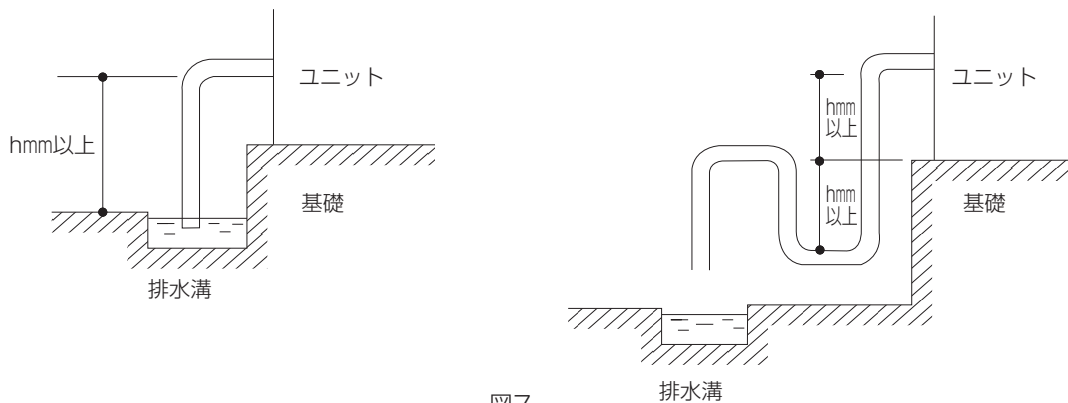


図7

- ドレン配管は室外側（排水側）が下り勾配（1/100 以上）となるようにしてください。
- ドレン配管の横引きは 20m（高低差は含みません）以下にしてください。また、ドレン配管が長い場合には途中に支持金具を設けてドレン配管の波打ちをなくしてください。エア抜き管は絶対につけないでください。ドレンが吹出る場合があります。
- 塩ビ管を使用する場合、必ず塩ビ系接着剤にて漏れのないように確実に接続してください。
- 集合配管は、本体ドレン出口より 10cm 位低い位置に集合配管がくるようにし、かつ集合配管は、VP40 以上のもので下り勾配が 1/100 以上になるように施工してください。
- ドレン配管はイオウ系ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。
- ドレン配管の出口は臭気の発生するおそれのない場所に施工してください。
- ドレン排水テストをしてください。ドレンパンにやかん等で注水して排水が確実に行われることを確認してください。

⚠ 注意

作業するときは保護具を身につけること。

- けがのおそれあり。



ドレン配管は断熱すること。

- 不備がある場合、露落ちにより天井・床がぬれるおそれあり。



販売店または専門業者が据付工事説明書に従ってドレン配管工事を行うこと。

- 水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



4. 冷媒配管・ドレン配管仕様

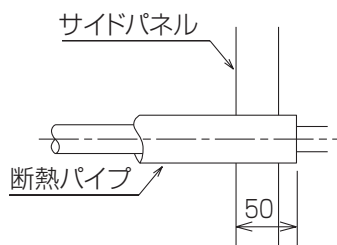
4-1. 断熱工事

- ※ 冷媒配管・ドレン配管とも露タレを防止するため、十分な防露断熱工事を施工してください。
- ※ 市販の冷媒配管を使用の場合には、液管・ガス管ともに必ず市販の断熱材（耐熱温度 100℃以上・厚さ、下表による）を巻いてください。室内を通るドレン配管は、必ず市販の断熱材（発泡ポリエチレン比重 0.03・厚さ、下表による）を巻いてください。

- ① 断熱材の厚さは、配管サイズにより選定してください。

配管サイズ	断熱材の厚さ
6.4mm ～ 25.4mm	10mm 以上
28.58mm ～ 38.1mm	15mm 以上

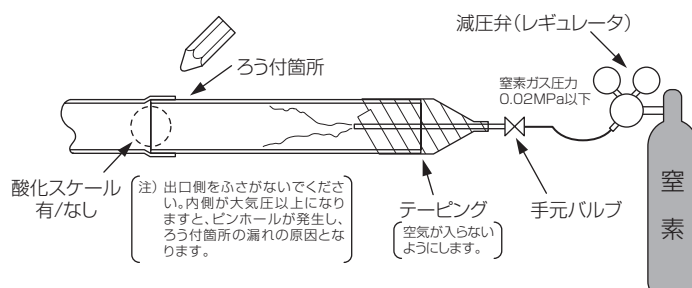
- ② 高温多湿の条件下で使用する場合は、上記の厚さ以上にする必要があります。
- ③ 客先指定の仕様がある場合は、それに従ってください。



サイドパネル貫通穴と断熱パイプ（現地手配）は隙間がないようコーキングしてください。液管・ガス管の断熱パイプはサイドパネルの内側に 50mm 以上入れてください。現地配管パイプカバーの中に配管の結露水が浸入しないように、コーキングなどの水切り処置をしてください。

4-2. 冷媒配管・ドレン配管サイズ

- 冷媒配管は JIS H 3300「銅及び銅合金継目無管」の C1220 のりん脱酸銅を、配管継手は JIS B 8607 に適合したものを使用してください。配管・継手の内面・外面ともに硫黄・酸化物・ゴミ、切粉・油脂・水分が付着していないことを確認してください。
- ろう付け作業は労働安全衛生法で定められた溶接技能士またはガス溶接技能講習修了者が作業してください。
- 漏えい点検記録簿の管理について
気密試験後、冷媒の充てん状況、漏えい検査結果などを所定の記録用紙に追記し、空調機器の所有者が管理するようにしてください。



必ず減圧弁を使用してください。
必ず窒素ガスを使用してください。
（酸素・炭酸ガス・フロンガスは不可）

P1600 形には、室外ユニットからガス・液それぞれ 2 本ずつ接続する冷媒回路方式となっています。
室外ユニット側の据付説明書を参考にして 2 冷媒回路におけるガス・液管の誤接続がないように注意してください。

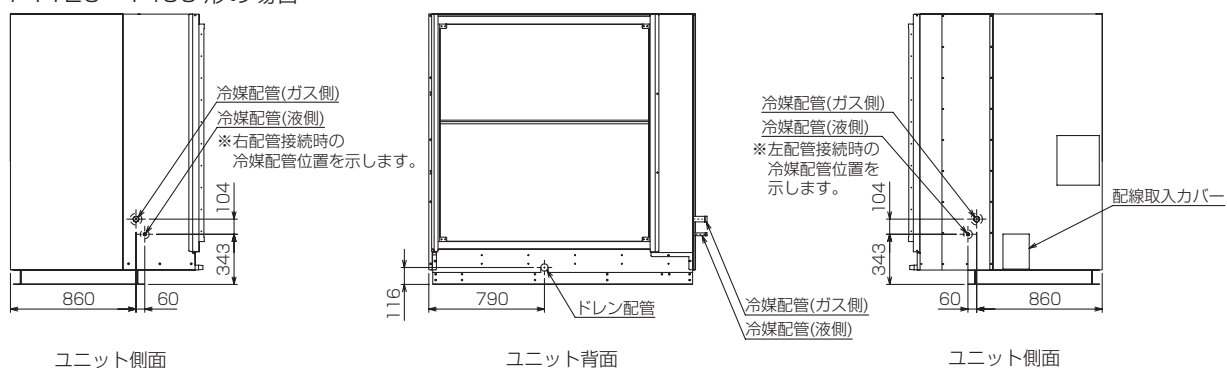
項目	形名	P1120・1400 形	P1600 形
冷媒配管	液管	φ 19.05 × 1.0t (1/2H または H 材) (ろう付)	φ 19.05 × 1.0t (1/2H または H 材) (ろう付) × 2 本
	ガス管	φ 38.1 × 1.35t (1/2H または H 材) (ろう付)	φ 31.75 × 1.1t (1/2H または H 材) (ろう付) × 2 本
ドレン配管		R1 1/4 おねじ接続 φ 42.7 鋼管	

- ※ 塩ビ管接続の場合、接続用ソケットは現地手配願います。
- ※ 本ユニットは冷媒に R410A 使用のため、φ 19.05 以上の配管については O 材では耐圧不足となります。
必ず 1 / 2H 材または H 材を使用してください。

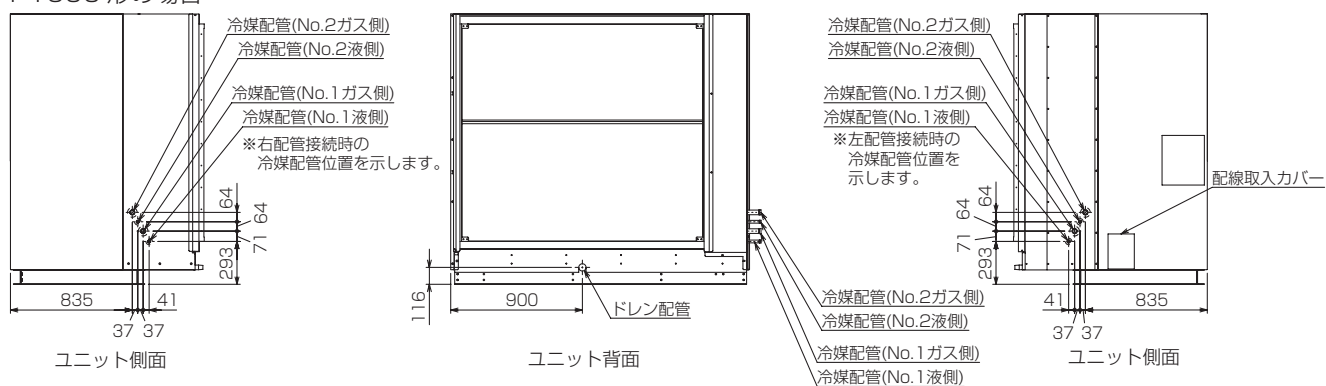
4-3. 冷媒配管・ドレン配管位置

(単位 mm)

P1120・1400 形の場合



P1600 形の場合



※ 左配管接続、右配管接続方法の詳細は、4-4. 配管接続方法に明記していますので、参照してください。

4-4. 配管接続方法

本ユニットは、冷媒配管をユニット正面から見て左側面に接続する場合と右側面に接続する場合では作業内容が異なりますので、以下の手順に従って作業を行ってください。

また、本作業が完了後に室内機と室外機の配管接続を行ってください。

●付属配管の確認

配管の接続前にユニット内部の台枠上に袋詰めされているL字形の付属配管を取出してください。

L字付属配管の仕様は、下表を参照してください。

表. 付属配管仕様

P1120・1400 形の場合

No.1 ガス側付属配管	No.1 液側付属配管

P1600 形の場合

No.1 ガス側付属配管	No.1 液側付属配管
No.2 ガス側付属配管	No.2 液側付属配管

●左配管接続

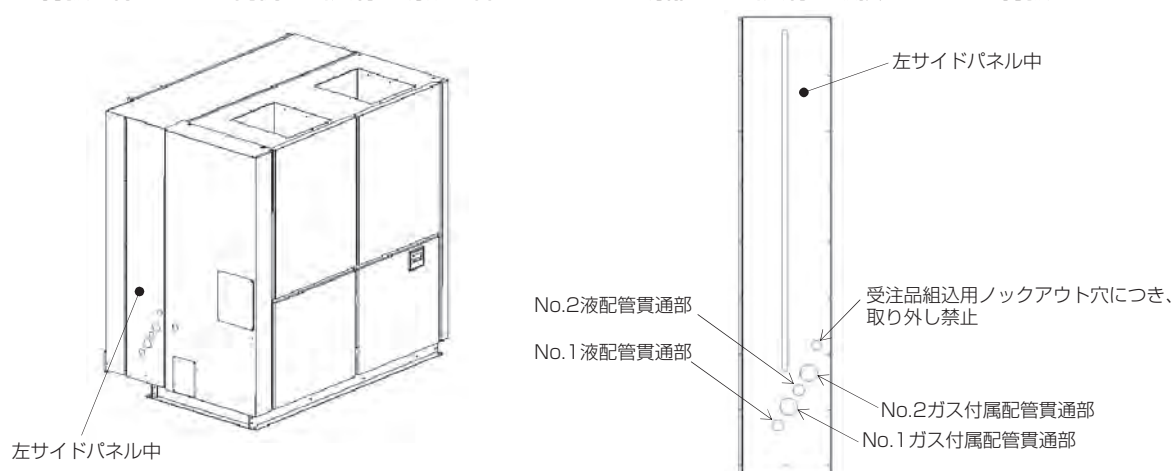
(例) P1600 形の場合

〈手順①：パネル取外し、ノックアウト穴打ぬき〉

(1) ユニット正面から見て左側のサイドパネル中を取外してください。

(2) 取外した左サイドパネル中の4つのノックアウト穴を打ち抜いてください。

※ 打抜く際はパネル内側の断熱材の切残し部をカッターで切離し、断熱材が破損しないよう打抜いてください。



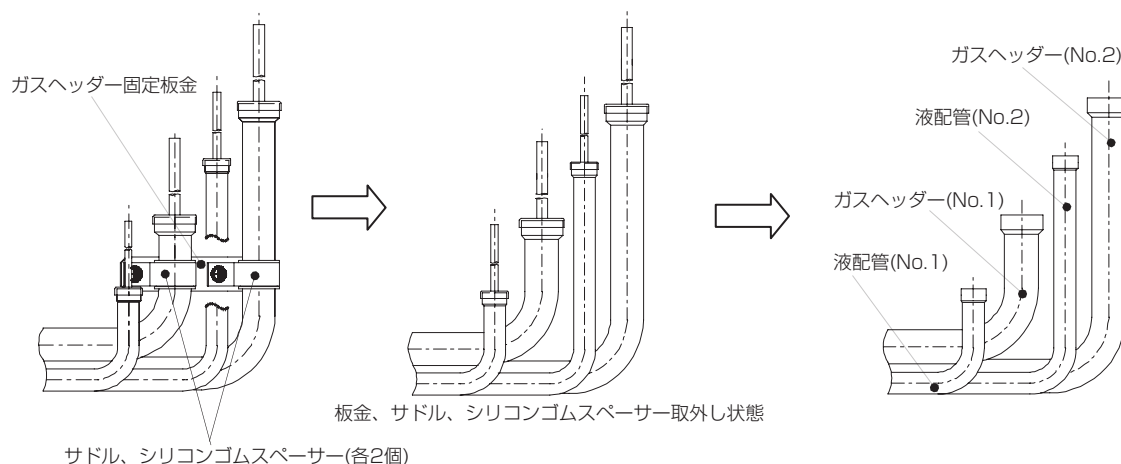
〈手順②：熱交換器のチャージ管取外し〉

- (1) ガスヘッダー固定板金、サドル、シリコンゴムスペーサーを取外してください（※ 1）。
- (2) 熱交換器先端のチャージ管の先端を切断し、ガスを抜いてください（※ 2）。
- (3) ガス抜き完了後、チャージ管を取外してください。このとき、トーチの炎が配線や板金を燃焼させないために、必ず濡れ雑巾等で周囲を養生してください。

※ 1：アタッチメント板金を取外さないで作業を行った場合、トーチの炎でゴムが燃焼するおそれがあります。

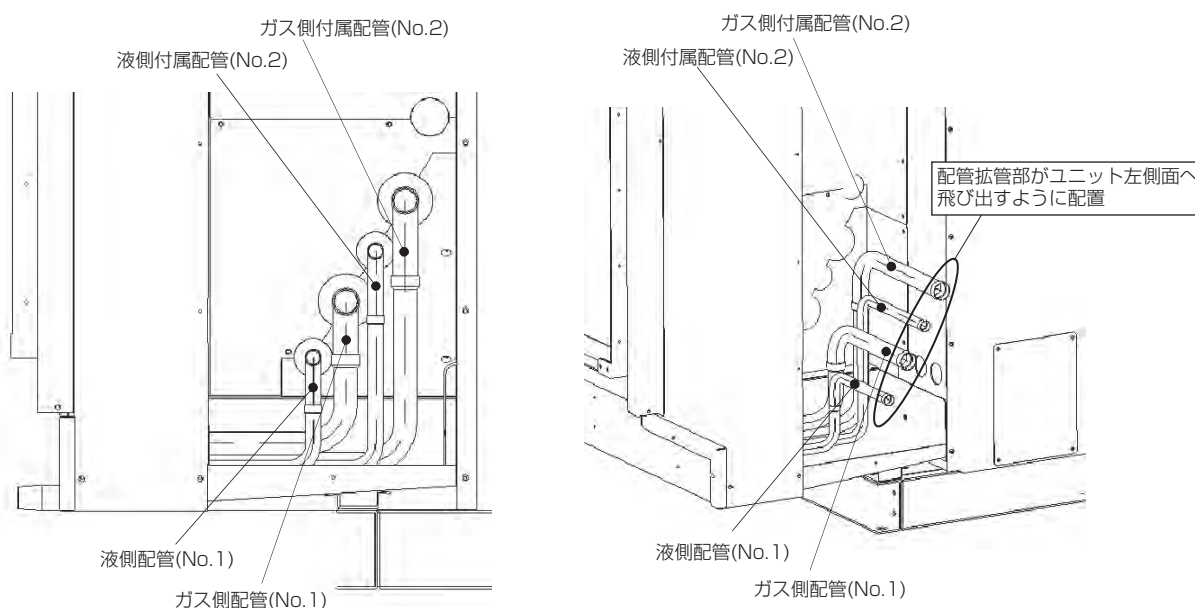
（P1120・1400 形には固定板金、サドル、シリコンゴムスペーサーは付属していません。）

※ 2：ガスを抜かずに作業した場合、ろうが飛び散りキャップが飛ぶおそれがあります。



〈手順③：付属配管のろう付け〉

- (1) 付属のL字配管を下図の如くユニット左側面に対して配管拡管部が垂直方向となるように配置してください。
- (2) 配管の配置が完了したら、ろう付けを行ってください。このとき、トーチの炎が配線や板金を燃焼させないために、必ず濡れ雑巾等で周囲を養生してください。



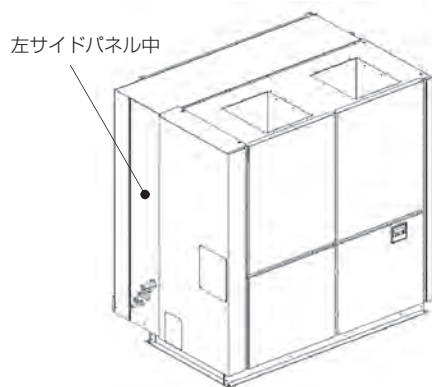
〈手順④：ガスヘッダー固定板金、サドル、シリコンゴムスペーサーの取付け〉

- (1) ろう付け完了後、手順②で取外したガスヘッダー固定板金、サドル、シリコンゴムスペーサーを再度取付けてください。

※ P1120・1400 形には固定板金、サドル、シリコンゴムスペーサーは付属していません。

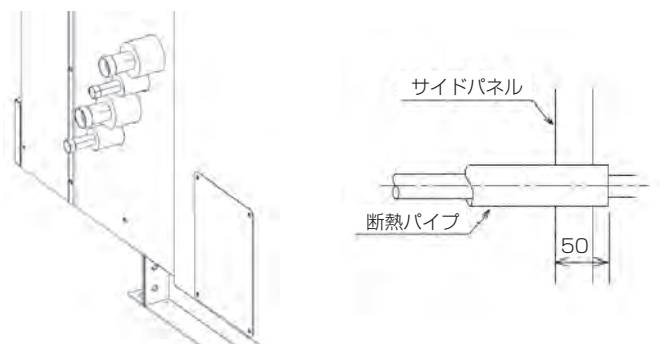
〈手順⑤：左サイドパネルの取付け〉

(1) 手順①で取外した左サイドパネル中を取付けてください。



〈手順⑥：断熱工事〉

(1) ユニット左側面に配置された配管に対し、断熱材を巻いてください。巻き方の詳細は、4-1. 断熱工事を参照してください。



サイドパネル貫通穴と断熱パイプ（現地手配）は隙間がないようコーキングしてください。液管・ガス管の断熱パイプはサイドパネルの内側に 50mm 以上入れてください。サイドパネル内側の断熱材端面（パイプカバーとの境目）もコーキングし、断熱材繊維の飛散を防止してください。現地配管パイプカバーの中に配管の結露水が浸入しないように、コーキングなどの水切り処置をしてください。

以上で左配管接続の全工程が完了です。冷媒配管工事については、室外ユニット添付の「据付工事説明書」を参照してください。

※ P1120・1400 形につきましては、ガス、液付属配管が各 1 本ずつの仕様となりますが、作業内容は例に示しましたユニット (P1600 形) と全く同様に確実に実施してください。

⚠ 注意

コーキングをすること。

- 不備がある場合、床がぬれるおそれあり。



指示を実行

●右配管接続

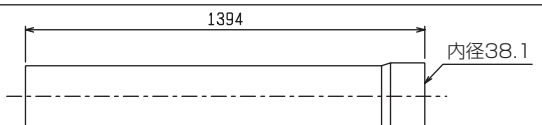
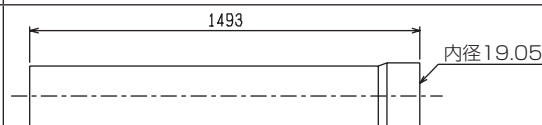
〈前準備 1：直管の現地調達〉

(1) 右配管接続の場合、L 字形の付属配管の他に、下記の配管（直管）を現地調達してください。

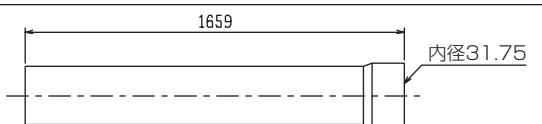
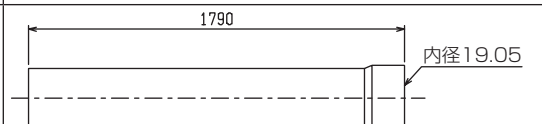
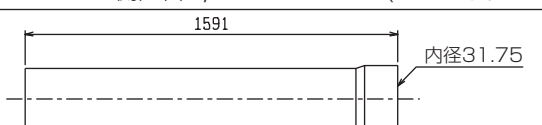
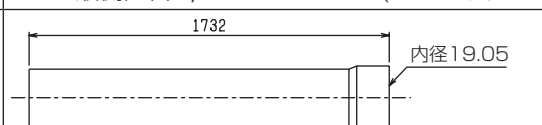
※ 下表に記載の配管長はユニット右側面より配管が 100mm 飛出す場合の寸法となりますので、現地施工方法にあわせ、配管長を適宜調整してください。

表. 現地調達直管仕様

P1120・1400 形の場合

No.1 ガス側直管: $\phi 38.1 \times 1.35t(1/2H \text{ または } H \text{ 材})$	No.1 液側直管: $\phi 19.05 \times 1.0t(1/2H \text{ または } H \text{ 材})$
	

P1600 形の場合

No.1 ガス側直管: $\phi 31.75 \times 1.1t(1/2H \text{ または } H \text{ 材})$	No.1 液側直管: $\phi 19.05 \times 1.0t(1/2H \text{ または } H \text{ 材})$
	
No.2 ガス側直管: $\phi 31.75 \times 1.1t(1/2H \text{ または } H \text{ 材})$	No.2 液側直管: $\phi 19.05 \times 1.0t(1/2H \text{ または } H \text{ 材})$
	

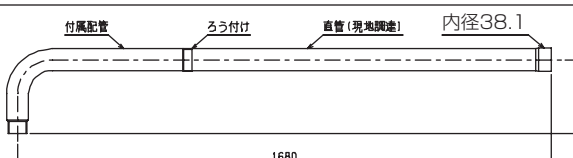
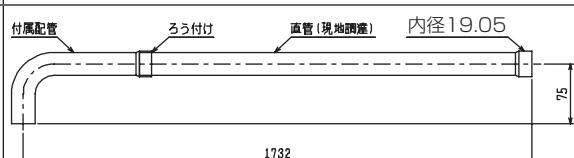
〈前準備 2：L 字形付属配管と直管のろう付け（配管 ASSY の作成）〉

(1) 前準備 1 にて調達した現地直管と、ユニットに付属している L 字形付属配管を下図の如くろう付けしてください。
このとき、No.1 ガス側付属配管は No.1 ガス側直管と、No.2 ガス側付属配管は No.2 ガス側直管とろう付けをするようにしてください。液側も同様に番号を合わせてろう付けをするようにしてください。

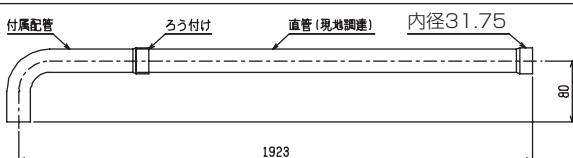
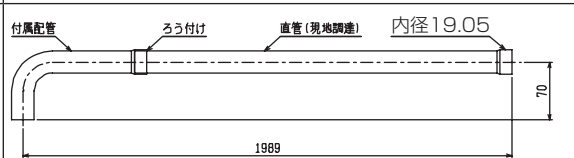
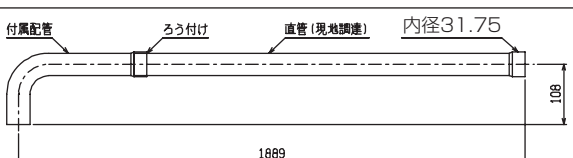
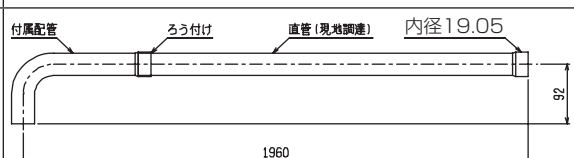
※ ろう付けスペースは 2-2. 室内ユニットの設置に記載のサービススペース内もしくは別途ろう付けスペースを確保して行ってください。

表. ろう付け後の配管 ASSY 仕様

P1120・1400 形の場合

No.1 ガス配管 ASSY	No.1 液配管 ASSY
	

P1600 形の場合

No.1 ガス配管 ASSY	No.1 液配管 ASSY
	
No.2 ガス配管 ASSY	No.2 液配管 ASSY
	

(1) ろう付けした配管 ASSY にそれぞれ断熱パイプを巻きつけてください。断熱材は 4-1. ①の表より配管径にあったサイズを確実に選定してください。断熱材の長さについては、下表を参照してください。

<p>No.1 ガス配管 ASSY</p>	<p>No.1 液配管 ASSY</p>
-----------------------	----------------------

<p>No.1 ガス配管 ASSY</p>	<p>No.1 液配管 ASSY</p>
<p>No.2 ガス配管 ASSY</p>	<p>No.2 液配管 ASSY</p>

※ 打抜く際はパネル内側の断熱材の切残し部をカッターで切離し、断熱材が破損しないよう打抜いてください。



左サイドパネル中

ノックアウト穴

受注品組込用
ノックアウト穴につき、
取り外し禁止

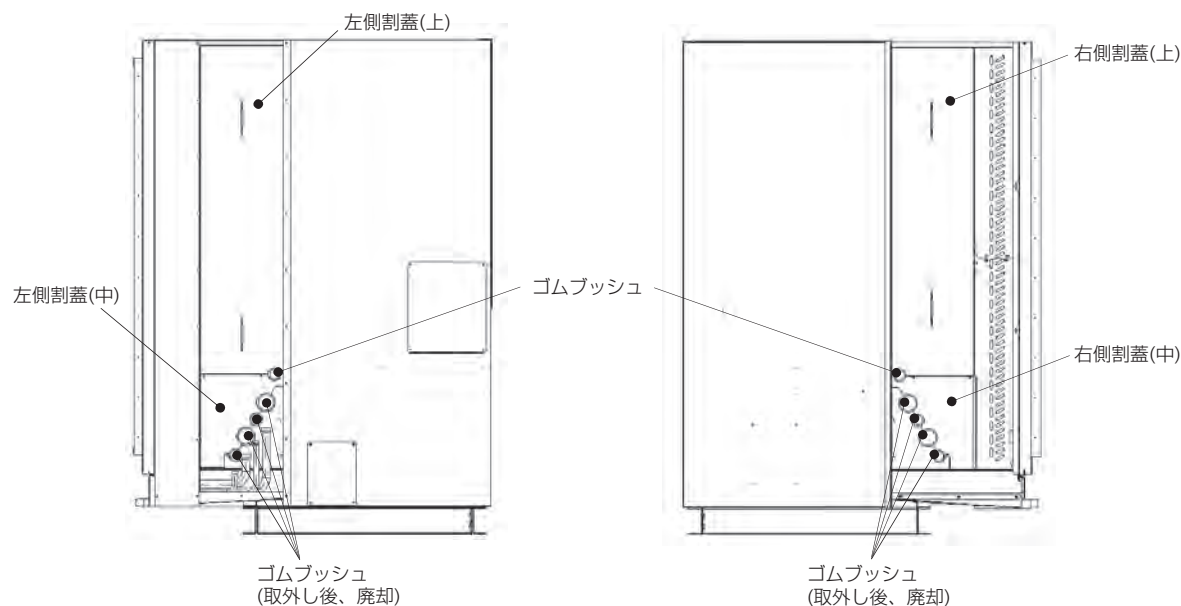
右フィルターカバー

右サイドパネル後

〈手順②：左右の割蓋（上）、割蓋（中）、ゴムブッシュの取外し〉

(1) 露受の上に配置している左右の割蓋（上）、割蓋（中）、ゴムブッシュを取外してください。

割蓋（上）と割蓋（中）の間に取付けているゴムブッシュを残し、その他のゴムブッシュは不要ですので廃却してください。

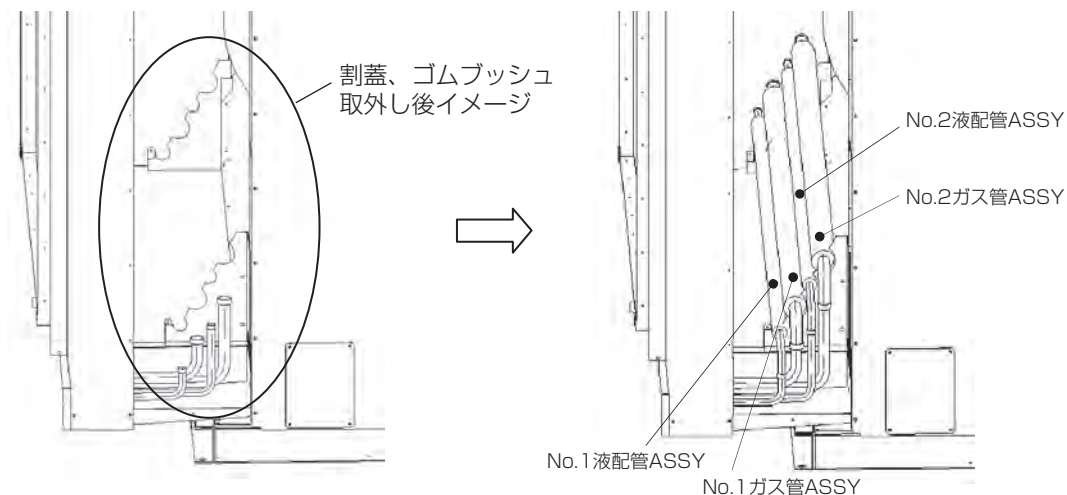


〈手順③：ガス、液配管 ASSY のユニット内部通し〉

(1) ●左配管接続〈手順②〉の同様の作業を行い、熱交換器のチャージ管を取外してください。

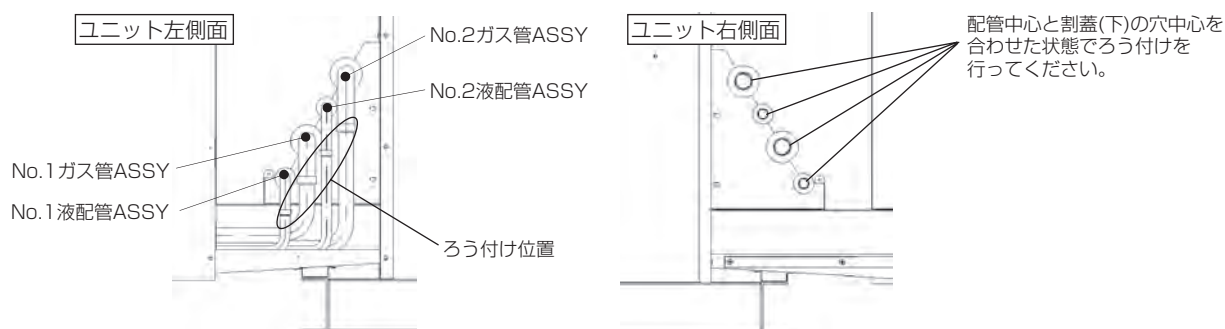
(2) ガス抜き完了後、前準備で予め製作しておいた配管 ASSY を露受上部のスペースに下図の如く通します。

配管 ASSY の番号を間違えて配置した場合、正しい位置に配管がこないため、ろう付けできなくなりますので、必ず下図の通りに配置してください。



〈手順④：配管 ASSY のろう付け〉

(1) ユニット内部を通した配管 ASSY のろう付けを行ってください。このとき、内部を通した配管の中心位置が割蓋（下）の穴の中心位置にきていることを確認してからろう付けを行ってください。



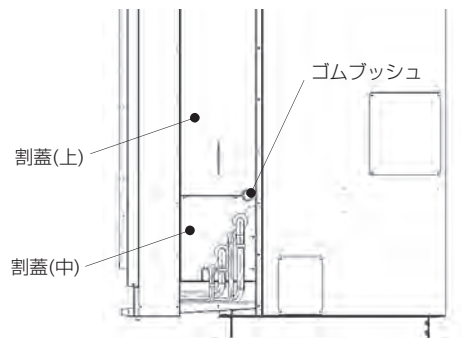
〈手順⑤：ガスヘッダー固定板金、サドル、シリコンゴムスペーサーの取付け〉

(1) ろう付け完了後、手順③(1)で取外したガスヘッダー固定板金、サドル、シリコンゴムスペーサーを再度取付けてください。

※ P1120・1400 形には固定板金、サドル、シリコンゴムスペーサーは付属していません。

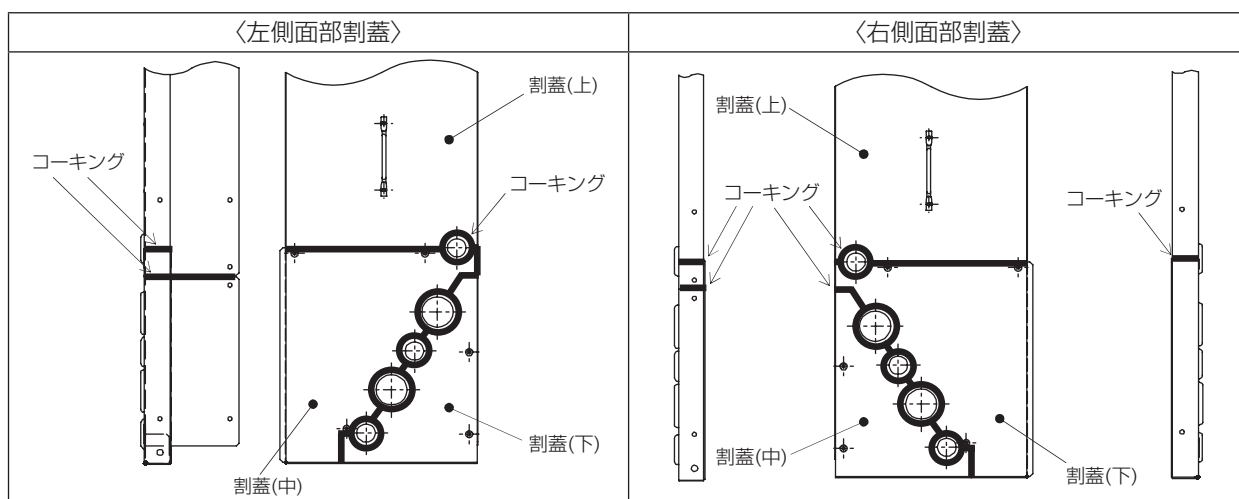
〈手順⑥：割蓋（上）、割蓋（中）、ゴムブッシュの取付け〉

(1) 手順②で取外した割蓋（上）、割蓋（中）、ゴムブッシュ（1 個）を取付けてください。取付ける順は、割蓋（中）→割蓋（上）→ゴムブッシュ の順で行ってください。



〈手順⑦：コーキング 1〉

(1) ユニット内部を通した配管 ASSY と割蓋との隙間を完全にコーキングしてください。コーキング箇所は下図を参照してください。



割蓋同士の隙間、配管 ASSY と割蓋の隙間を完全にコーキングしてください。
割蓋板金を取外す場合は、コーキングを一度取外してから板金を取外してください。
板金を再度取付ける場合は、コーキングを必ず忘れずに実施してください。

⚠ 注意

コーキングをすること。

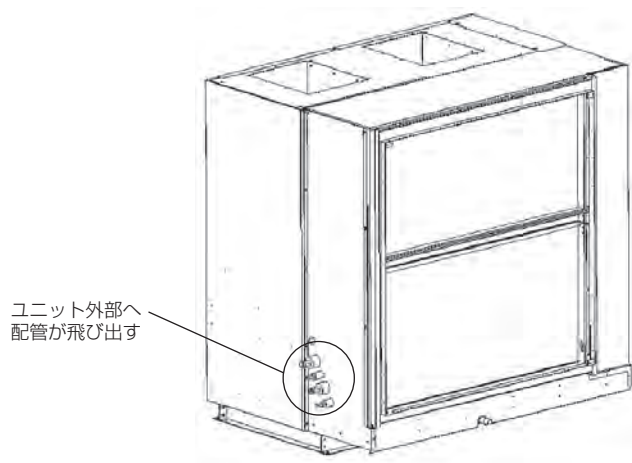
◆ 不備がある場合、床がぬれるおそれあり。



指示を実行

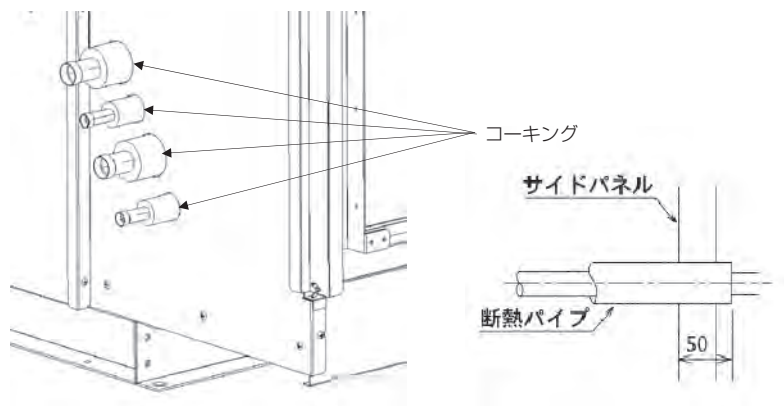
〈手順⑧：パネル取付け〉

- (1) 手順①で取外したパネルを、外した順と逆手順で取付けてください。
全パネルの取付けが完了しましたら、ユニット右側面から配管がユニット外部へ飛び出した状態となっていることを確認してください。



〈手順⑨：コーキング 2〉

- (1) サイドパネル貫通穴と断熱パイプに隙間がないようコーキングしてください。現地配管パイプカバーの中に配管の結露水が浸入しないように、コーキングなどの水切り処置をしてください。



サイドパネル貫通穴と断熱パイプ（現地手配）は隙間がないようコーキングしてください。

液管・ガス管の断熱パイプはサイドパネルの内側に50mm以上入れてください。サイドパネル内側の断熱材端面（パイプカバーとの境目）もコーキングし、断熱材繊維の飛散を防止してください。

現地配管パイプカバーの中に配管の結露水が浸入しないように、コーキングなどの水切り処置をしてください。

※ P1120・1400 形につきましては、ガス、液付属配管が各 1 本ずつの仕様となりますが、作業内容は例に示しましたユニット (P1600 形) と全く同様に確実に実施してください。

⚠ 注意

コーキングをすること。

- ・不備がある場合、床がぬれるおそれあり。



指示を実行

5. 電気配線

⚠ 警告

電気工事は第一種電気工事士の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。



指示を実行

- 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

C・D種接地工事（アース工事）は第一種電気工事士の資格のある電気工事業者が行うこと。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。



アース接続

- 感電・ノイズによる誤動作・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。

電気工事についてのご注意

- 1) 電気工事は、「電気設備に関する技術基準を定める省令」「内線規程」および電力会社の規定に従ってください。
- 2) 電気配線工事は電力会社の認定工事店で行ってください。
- 3) 電源は必ず専用の分岐回路からとり、漏電遮断器を取付けます。
- 4) ユニットの外部では、制御回路の電線（室内外伝送線・MA リモコン線・集中管理用 M-NET 伝送線）と電源配線が直接接触しないように 5cm 以上（温度センサー配線は 30cm 以上）離して施設してください。
- 5) 配線の接続はネジの緩みのないように確実に行ってください。
- 6) ユニットへの接続配線は必ず電線管を通し、ユニットの配線接続部に張力が、かからないようにしてください。（※制御回路の電線と電源配線を同一電線管に入れないでください。）
- 7) MA リモコン用・室内外伝送線用・集中管理用 M-NET 伝送線用端子台には電源配線を接続しないでください。（故障します。）
- 8) 室内ユニットとリモコンおよび室外ユニットを必ず配線接続します。
- 9) 300V 以下の機種は D 種接地工事、300V を超える機種は C 種接地工事を行ってください。
- 10) 制御配線は以下の条件からお選びください。

制御配線の種類と許容長

制御配線には、「室内外伝送線」・「リモコン線（2 リモコンの場合）」があります。

システム構成により、配線の種類及び許容長が異なります。配線工事の前に、必ず室外ユニットの据付工事説明書をご覧ください。

(1) 伝送線配線

配線の種類	対象施設	全ての施設
	種 類	シールド線 CVVS・CPEVS・MVVS
	線 数	2 心ケーブル
	線 径	1.25mm ² 以上
室内外伝送線最遠長		最大 200m

(2) リモコン配線

配線の種類	リモコン	
	種 類	VCTF・VCTFK・CVV CVS・VVR・VVF・VCT
	線 数	2 心ケーブル
	線 径	0.3mm ² (注 1)
総延長		最大 200m

(注 1) シース付 0.3mm² ケーブルをご使用ください。

(3) 温度センサー配線

配線の種類	種 類	シールド線 CVVS・CPEVS・MVVS
	線 数	2 心ケーブル
	線 径	1.25mm ² 以上
総延長		最大 200m

- ※ 温度センサー配線を 12m 以内で使用する場合は、PAC-SE40TS-W に付属しているケーブル (12m) を使用ください。
12m を超える場合は、上記配線表の仕様にしながらって配線をしてください。
温度センサー設置方法は、温度センサー (PAC-SE40TS-W) の据付工事説明書と次項「5-2. 電気配線接続」を必ず参照ください。
- ※ シールド線にて延長される場合は、次の据付条件にしたがって配線してください。
- ・ 動力線 (強電系) とは、30cm 以上離してください。
 - ・ インバーター機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器などの影響を受けないように配線してください。
 - ・ シールド線は、室内ユニットのアース端子へ接続してください。

5-1. 電源配線

⚠ 警告

ヒューズ交換時は、指定容量のヒューズを使用し、針金・銅線で代用しないこと。

・ 発火・火災のおそれあり。



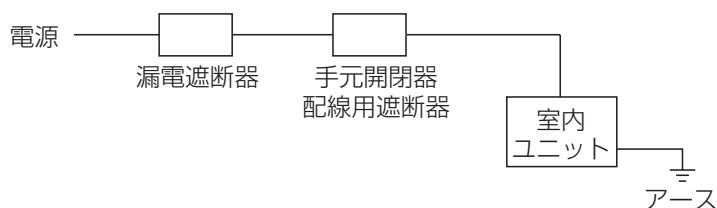
使用禁止

正しい容量のブレーカー (漏電遮断器・手元開閉器<開閉器 + B 種ヒューズ>・配線用遮断器) を使用すること。

・ 大きな容量のブレーカーを使用した場合、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行



形 名	電動機出力	電線太さ		漏電遮断器	手元開閉器		配線用遮断器
		電源配線	アース		開閉器容量	過電流保護器	
P1120 形	5.5kW	5.5mm ²	5.5mm ²	75A ※ 2	60A	50A (B 種ヒューズ)	75A
	7.5kW ※ 1	8mm ²	5.5mm ²	100A ※ 3	100A	75A (B 種ヒューズ)	100A
	11kW	14mm ²	8mm ²	125A ※ 3	100A	100A (B 種ヒューズ)	125A
P1400 形	7.5kW	8mm ²	5.5mm ²	100A ※ 3	100A	75A (B 種ヒューズ)	100A
	11kW ※ 1	14mm ²	8mm ²	125A ※ 3	100A	100A (B 種ヒューズ)	125A
	15kW	22mm ²	8mm ²	125A ※ 3	100A	100A (B 種ヒューズ)	125A
P1600 形	7.5kW	8mm ²	5.5mm ²	100A ※ 3	100A	75A (B 種ヒューズ)	100A
	11kW ※ 1	14mm ²	8mm ²	125A ※ 3	100A	100A (B 種ヒューズ)	125A
	15kW	22mm ²	8mm ²	125A ※ 3	100A	100A (B 種ヒューズ)	125A

- ※ 1 標準仕様の電動機出力を示します。
- ※ 2 漏電遮断器は感度 100mA 0.1s 以下を使用ください。
- ※ 3 漏電遮断器は感度 100 ~ 200mA 0.1s 以下を使用ください。
- ※ 4 製品の故障、電源配線不良などにより大電流が流れた場合、製品側の遮断器と上位側の遮断器が共に作動することがあります。設備の重要度により電源系統を分割するか、遮断器の保護協調をとってください。

- 注 1. 電源には、必ず漏電遮断器を取付けてください。
2. 漏電遮断器で地絡保護専用のものは、手元開閉器または配線用遮断器を組合わせて使用してください。
3. 電源配線にあたっては「電気設備に関する技術基準を定める省令」および「内線規定」に従ってください。

5-2. 電気配線接続

(端子のネジのゆるみのないよう注意してください。)

⚠ 警告

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



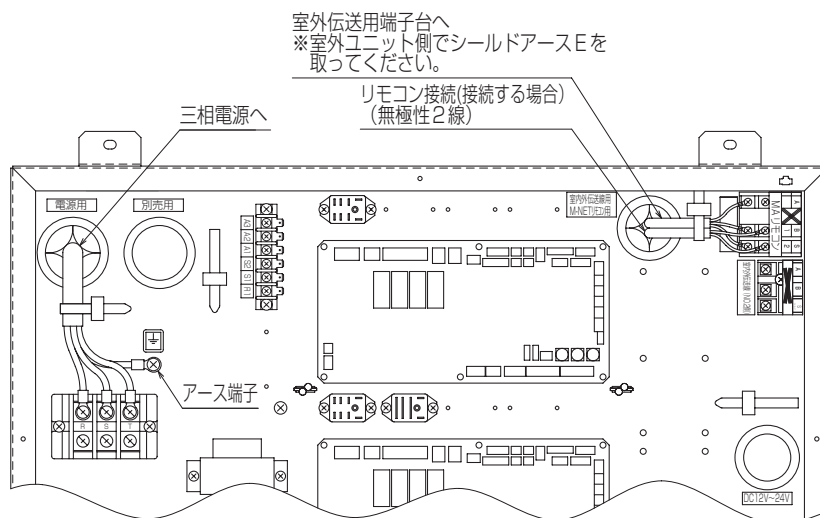
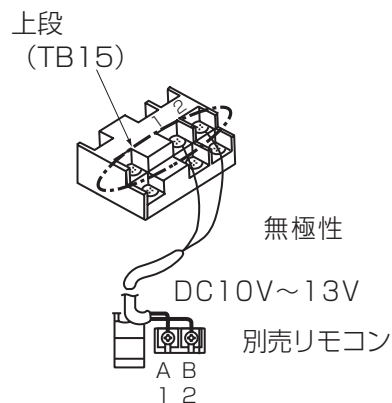
手順

1. 本体下側の前パネルを外し、制御ボックスのカバーを外してください。
2. 下図のように、電源配線、室外伝送線配線、リモコン配線(2リモコンの場合)を行ってください。制御ボックスの取外しは不要です。
3. 配線が終わりましたら、ゆるみ・誤りのないことを再度確認の上、前パネルおよび制御ボックスカバーを取外しとは逆の手順で取付けてください。

※ 三相電源配線と伝送線配線(室内外伝送線、リモコン線、温度センサー配線)の経路を必ず分けた経路としてください。

ユニットの電線引込み位置は、サイドパネル下部の四角カバーパネル(穴は現地加工φ30～φ60)です。

[別売リモコンを用いて2リモコンで使用する場合]

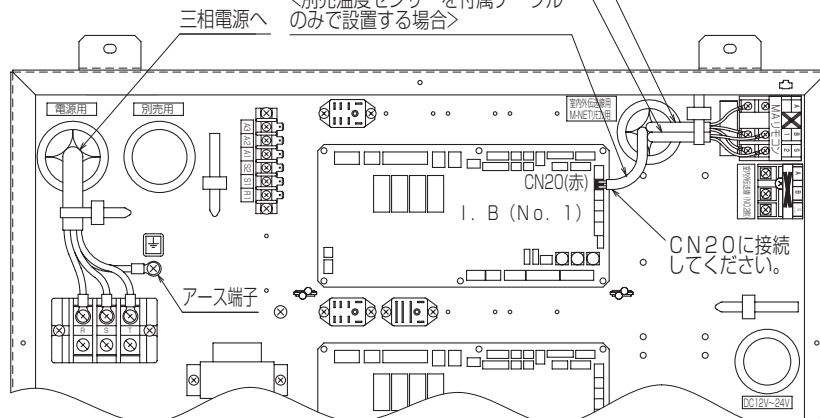


〈別売温度センサー（PAC-SE40TS-W）を付属ケーブルのみで設置する場合〉

室外伝送用端子台へ
※室外ユニット側でシールドアースEを取ってください。

リモコン接続(接続する場合)
(無極性2線)

温度センサー配線 (PAC-SE40TS-W)
〈別売温度センサーを付属ケーブルのみで設置する場合〉



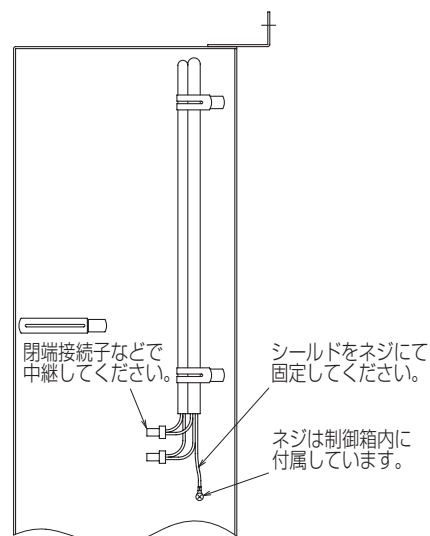
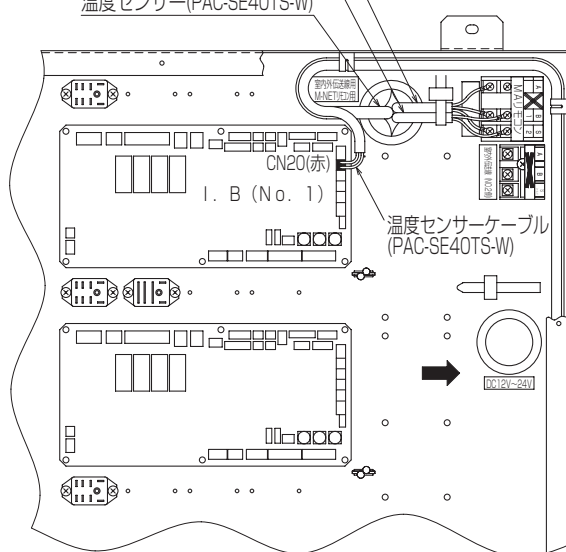
〈温度センサーをシールド線にて延長される場合〉

室外伝送用端子台へ
※室外ユニット側でシールドアースEを取ってください。

リモコン接続(接続する場合) (無極性2線)

シールド線にて延長した
温度センサー(PAC-SE40TS-W)

※本記載以外は
〈温度センサーを付属ケーブルのみで設置する場合〉と同じ



➡ 矢印方向から見た図

5-3. リモコン・室内外伝送線・温度センサーの接続

< a. 室内外伝送線 >

室外ユニット（OC）の室内外伝送線用端子台（TB3）のA、B端子と室内ユニット（IC）の室内外伝送線用端子台（TB5）のA、B端子を渡り配線します。（無極性2線）

[シールド線の処理]

シールド線のアースは、OCのアースネジと、ICの端子台（TB5）のS端子とを渡り配線します。

< b. リモコン配線 > ※2リモコンまたはグループ運転しない場合は不要です。

[2リモコン運転の場合]

2リモコンとする場合は、ICの端子台（TB15）の1、2端子とリモコン（別売）の端子台を接続します。

※ 接続したリモコン（別売）の主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。

（設定方法は、下記およびリモコンの据付工事説明書を参照ください。）

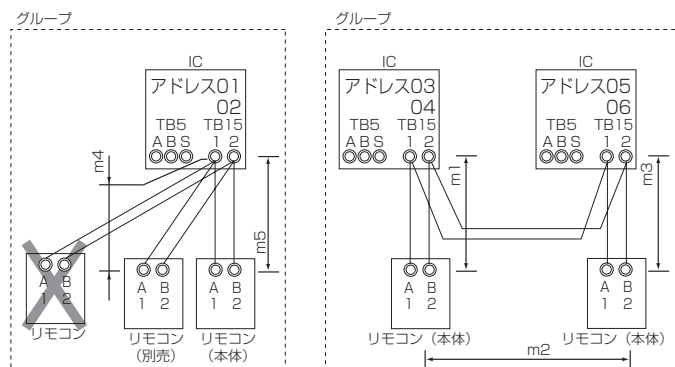
[室内グループ運転の場合]

ICをグループ運転をする場合は、両方のICの端子台（TB15）の1、2端子同士を接続します。（無極性2線）

※ 一方の室内ユニットのリモコンの主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。

（設定方法は、下記を参照ください。）

同一グループ内の一番機能が多い室内ユニットのアドレスを01～50の若い番号に設定してください。



< 許容長 >

リモコン配線

総延長 (0.3 ~ 1.25 mm²)

$m1 + m2 + m3 \leq 200m$

$m4 + m5 \leq 200m$

< 禁止事項 >

- ① 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。
- ② 同一グループの室内ユニットを同一アドレスに設定できません。

< c. 温度センサー配線 (室温制御利用の場合) >

室内ユニット（IC）の室内制御基板（I.B.）のコネクター CN20（赤）に温度センサー配線を接続します。

（無極性2線）

※ 温度センサー配線が長い場合やノイズ源がユニットに近接している場合は、必ずシールド線を使用してください。

※ 温度センサーの据付方法については、温度センサー（PAC-SE40TS-W）の据付説明書を必ずご参照ください。

■ リモコン用「主リモコン」「従リモコン」の設定方法

室内ユニット2台を1グループで運転する場合、または2リモコン運転を行う場合には、一方を「従リモコン」設定することが必要です。

※ 1グループに接続できるリモコンは最大2個までです。

（工場出荷時は「主リモコン」に設定しています。）

「従リモコン」の設定は、リモコン（別売）の据付工事説明書をご参照願います。

5-4. アドレス設定

(必ず元電源を切った状態で操作してください。)

- 1. 本システムは、必ずアドレス設定が必要です。
またユニットによりアドレス設定範囲が異なります。
- 2. グループ運転する場合は、下表に従ってアドレス設定してください。
※グループ運転とは、1つのリモコン（2リモコン含む）で、複数台の室内ユニットを運転する場合をいいます。

ユニットまたは コントローラー		記号	アドレス 設定範囲	設定方法	工場出荷時の アドレス設定 機 種
室内ユニット	親機・子機	IC	01～50 注1、注3	同一グループ内の親機にしたい室内ユニットを 最も若いアドレスにし、同一グループ内の室内ユ ニットのアドレスを連番に設定してください。	※1
リモコン		MA	アドレス設定不要です。（ただし、2リモコン運転する場合は主 従切換スイッチ設定が必要です。）		主
室外ユニット		OC OS1 OS2	51～100 注2	同一冷媒回路系統の最も若い室内ユニットアド レス+50に設定してください。同一冷媒回路 系室外ユニットのアドレスは連番に設定してく ださい。OC、OS1、OS2は自動判別されま す。（注4）	00

- 注1 他の冷媒回路系統の室内ユニット、室外ユニットのアドレスと重複する場合は、設定範囲内で別の空きアド
レスを設定してください。
- 注2 室外ユニットのアドレスを“100”に設定する場合は“50”としてください。
- 注3 室内ユニット内には、2枚もしくは3枚もしくは4枚の室内コントローラー（制御基板）を搭載した機種が
あります。
No.2 基板のアドレスは「No.1 基板アドレス+1」に、No.3 基板のアドレスは、「No.1 基板アドレス+2」
に、No.4 基板のアドレスは、「No.1 基板アドレス+3」に、必ず設定してください。
- 注4 同一冷媒回路系の室外ユニットのOC、OS1、OS2
は自動判別されます。
能力の大きな順（能力が同一の場合はアドレスの若
い順）にOC、OS1、OS2となります。

※1

P1120 注3	P1400 注3	P1600 注3
No.1 基板= 01 No.2 基板= 02	No.1 基板= 01 No.2 基板= 02 No.3 基板= 03	No.1 基板= 01 No.2 基板= 02 No.3 基板= 03 No.4 基板= 04

- 3. アドレス（SW12、11）の設定は、下記例のように10の
位（SW12）と1の位（SW11）の組合せになります。
(例) アドレス“03”は、10の位（SW12）：“0”、1の位（SW11）：“3”
アドレス“25”は、10の位（SW12）：“2”、1の位（SW11）：“5”
- 4. アドレス設定した場合は、製品名板にアドレス No. 記入欄がありますので油性マジック等で必ず記入してください。


5-5. 本体内蔵センサー以外で室温を検知する場合

- ・リモコン内蔵センサーをご使用の場合…… SW1-1 と SW3-8 をそれぞれ ON にセットしてください。

5-6. 送風機制御について

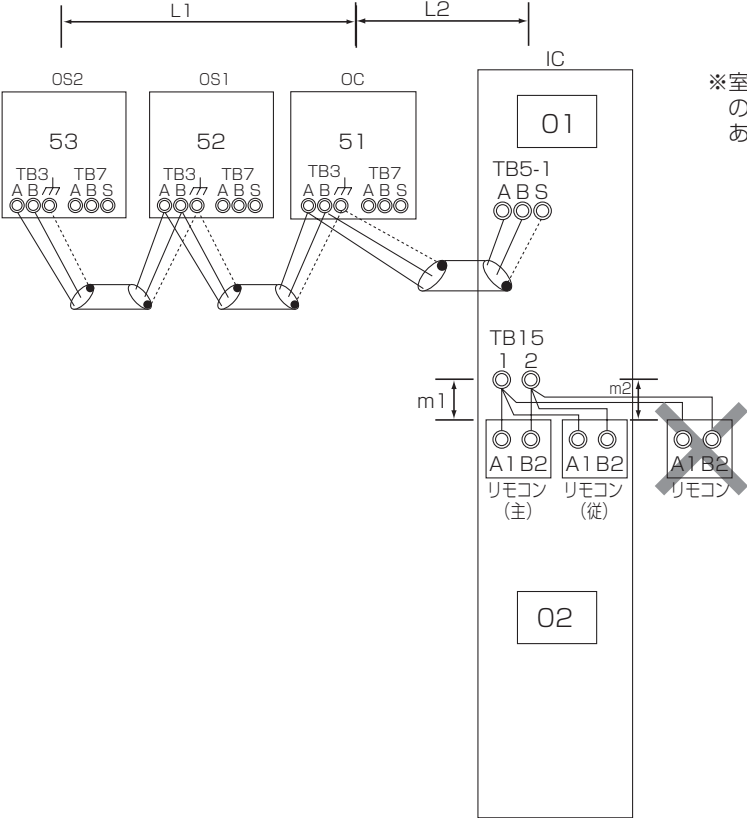

室内ユニット吸込空気乾球温度が5℃以下の場合には、加湿器凍結防止・冷風感防止のため、強制的に暖房運転することがあります。また全冷媒系統が異常時・除霜時にはファンが停止します。関連のスイッチ設定と運転動作については以下を参照ください。

仕 様	SW	動 作		備 考
		OFF	ON	
除霜時ファン動作	SW3-4	・除霜時ファン OFF	・除霜時ファン ON	工場出荷時は加湿器の凍結防止、冷風感防止のため OFF としています。

- ※  部分は出荷時設定
- ※ 加湿器組込みの場合は、低外気時に加湿器が凍結するおそれがありますので、必ず SW1-7 を ON、SW3-4 を OFF で
ご使用ください。
- ※ 除霜時にファン ON にすると室内に冷風が吹き出し、また、除霜復帰が遅れ室温が著しく低下するおそれがありますの
で SW3-4 を OFF でご使用ください。

5-7. システム接続例

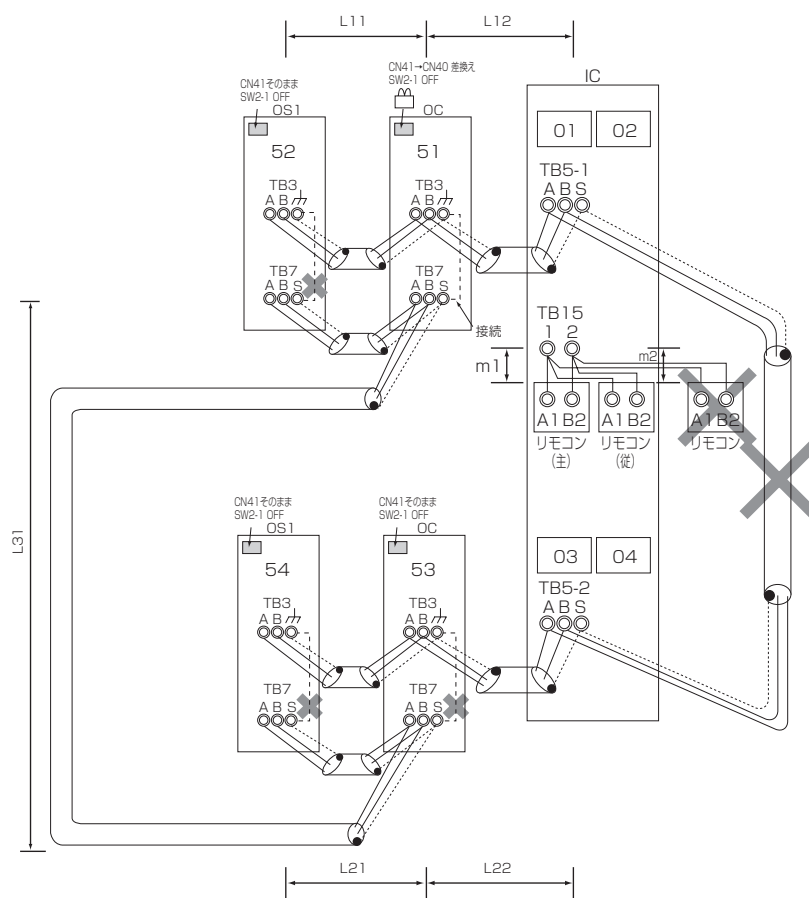
MA リモコンを用いたシステム
P1120・1400 形の場合

制 御 線 配 線 例	
<div><p>※室内ユニット内には、2枚もしくは3枚の室内コントローラー（制御基板）があります。</p></div>	
禁 止 事 項	許 容 長
<div>1. 室内ユニットアドレスは連番で設定してください。</div> <div>2. 同一グループの室内ユニットに3台以上のリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、リモコンが2台以下となるようにしてください。</div>	<div>< a. 室内外伝送線 > 最遠長（1.25 mm²以上） L2 ≤ 200 m</div> <div>< b. リモコン配線 > 総延長（0.3 ~ 1.25 mm²） m 1 + m 2 ≤ 200 m</div>
配線方法・アドレス設定方法	
<div>< a. 室内外伝送線 > 室外ユニット（OC, OS1, OS2）（注 1）の室内外伝送線用端子台（TB3）のA、B端子と室内ユニット（IC）の室内外伝送線用端子台（TB5）のA、B端子を配線します。 （無極性 2 線） ※ 必ずシールド線をご使用ください。</div> <div>[シールド線の処理] シールド線のアースは、OC のアース端子（) と、IC の端子台（TB5）のS 端子とを渡り配線します。 注 1. 同一冷媒回路系の室外ユニットの OC, OS1, OS2 は自動判別されます。</div> <div>< b. リモコン配線 > ※ 2 リモコンまたはグループ運転しない場合は不要です。</div> <div>[2 リモコン運転の場合] 2 リモコンとする場合は、IC の端子台（TB15）の 1, 2 端子とリモコン（別売）の端子台を接続します。 （無極性 2 線） ※ 接続したリモコン（別売）を主従切換機能にて従リモコンに設定してください。 （設定方法は、リモコンの据付説明書を参照ください。） リモコンは室内ユニットに内蔵されています。</div> <div>< c. スイッチ設定 > 「5-4. アドレス設定」を参照ください。</div>	

リモコンを用いたシステム

P1600 形の場合

制 御 線 配 線 例



禁 止 事 項

1. 室内ユニットアドレスは連番で設定してください。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台 (TB5) 同士を接続しないでください。
3. 同一グループの室内ユニットに 3 台以上のリモコンは接続できません。室内ユニットが 3 台以上になる場合は、リモコンが 2 台以下となるようにしてください。
4. 室外ユニットの給電切換コネクタ (CN41) の差替は、1 台の室外ユニットのみで実施してください。
5. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台 (TB7) の S 端子のアース処理は、1 台の室外ユニットのみで実施してください。

許 容 長

< a. 室内外伝送線 >

最遠長 (1.25 mm²以上)
 $L11 + L12 \leq 200 \text{ m}$
 $L21 + L22 \leq 200 \text{ m}$

< b. リモコン配線 >

総延長 (0.3 ~ 1.25 mm²)
 $m1 + m2 \leq 200 \text{ m}$

配線方法・アドレス設定方法

< a. 室内外伝送線 >

室外ユニット (OC, OS1) (注 1) の室内外伝送線用端子台 (TB3) の A, B 端子と室内ユニット (IC) の室内外伝送線用端子台 (TB5) の A, B 端子を配線します。(無極性 2 線) ※ 必ずシールド線をご使用ください。

[シールド線の処理]

シールド線のアースは、OC のアース端子 (アース) と、IC の端子台 (TB5) の S 端子とを渡り配線します。

注 1. 同一冷媒回路系の室外ユニットの OC, OS1 は自動判別されます。

< b. リモコン配線 > ※ 2 リモコンまたはグループ運転しない場合は不要です。

[2 リモコン運転の場合]

2 リモコンとする場合は、IC の端子台 (TB15) の 1, 2 端子とリモコン (別売) の端子台を接続します。(無極性 2 線)

※ 接続したリモコン (別売) を主従切換機能にて従リモコンに設定してください。

(設定方法は、リモコンの据付説明書を参照ください。) リモコンは室内ユニットに内蔵されています。

< c. スイッチ設定 > 「5-4. アドレス設定」を参照ください。

6. 試運転

お客さま立会いで、必ず試運転を行ってください。

6-1. 試運転前の確認事項

1	冷媒漏れや電源・伝送線のゆるみがないか確認します。
2	電源端子台と大地間の絶縁抵抗値を 500 V メガー計で計って、1.0 MΩ 以上あることを確認します。 1. 絶縁抵抗値が 1.0 MΩ 以下の場合、運転しないでください。 2. 伝送線用端子台は、絶対に絶縁抵抗値を計らないでください。制御基板が破損します。 3. 据付工事直後や長時間元電源を切った状態で放置した場合、圧縮機内に冷媒が溜ることにより、電源端子台と大地間の絶縁抵抗値が 1 MΩ 近くまで低下するおそれがあります。 4. 絶縁抵抗値が 1.0 MΩ 以下の場合、12 時間以上前に元電源を入れて、クランクケースヒーターに通電してください。圧縮機内の冷媒が蒸発し、絶縁抵抗値は上昇します。 5. リモコン用伝送線端子台の絶縁抵抗値の測定は、絶対にしないでください。
3	低圧側・高圧側のサービスバルブが、ともに全開になっていることを確認します。 注 1. キャップは必ず締めてください。
4	三相電源の相順と各相間電圧を確認してください。
5	試運転を行う最低 12 時間以上前に元電源を入れて、クランクケースヒーターに通電します。 注 1. 通電時間が短いと、圧縮機故障のおそれがあります。
6	試運転は、必ず前下パネルを開けて行ってください。

※電源投入時および停電からの復帰後、約 30 分間能力が低下する場合があります。

6-2. 試運転方法

- ・リモコンに点検コードが表示された場合・正常に作動しない場合は、次頁以降を参照してください。
- ・試運転中、時刻表示部に試運転残時間を表示します。
- ・試運転中、室内ユニットの液管温度をリモコン室温表示部に表示します。

外部入力接続をしている場合、
外部入力信号で運転操作し、
試運転を行ってください。

(1) 試運転を行う最低 12 時間以上前に元電源を入れる。

⇒最大 5 分間“PLEASE WAIT”を表示。以後、12 時間以上放置（クランクケースヒーター通電）

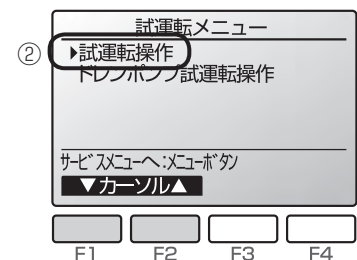
(2) 「試運転」を選択する。

① サービスメニュー画面で「試運転」を選択する。

② **F1** **F2** ボタンで「試運転操作」を選択する。

③ **決定** ボタンを押す。

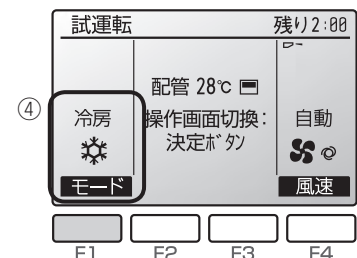
⇒試運転が開始され、試運転操作画面が表示される。



(3) 試運転操作を行う。

④ **F1** ボタンを押して運転を切り換える。

- [冷房運転] 冷風の吹出しを確認する。
- [暖房運転] 暖風の吹出しを確認する。



(4) 換気機器など連動する機器がある場合、その動作を確認。

(5) 試運転を終了する。

⑤ **運転停止** ボタンを押す。

⇒試運転が終了すると (2) の画面に戻る。

※試運転は 2 時間経過すると自動的に停止します。

6-3. 試運転不具合時の対応

■ 異常停止時、リモコン表示部に 4 桁のエラーコードが表示されます。不具合要因を点検してください。

(1) 室内ユニット

エラーコード	不具合内容	エラーコード	不具合内容
2500	漏水異常	6606	送受信エラー（伝送プロセッサとの通信異常）
2502	ドレンポンプ異常	6607	送受信エラー（ACK 無しエラー）
2503	ドレンセンサー異常・フロートスイッチ作動	6608	送受信エラー（応答フレーム無しエラー）
4109	ファン異常	6831	通信受信異常（受信なし）
5101	吸込センサー異常（TH21）	6832	通信送信異常（同期回復異常）
5102	配管センサー異常（TH22）	6833	通信送信異常（ハードウェア異常）
5103	ガス側配管センサー異常（TH23）	6834	通信受信異常（スタートビット検出異常）
5104	外気温度センサー異常	7101	能力コードエラー
6600	ユニットアドレス二重設定	7111	リモコンセンサー異常
6602	送信エラー（伝送プロセッサハードウェア異常）	7130	組み合わせ異常
6603	送信エラー（伝送路 BUSY）		

(2) 室外ユニット

エラーコード	不具合内容	エラーコード	不具合内容
0403	シリアル通信異常	5105	アキュムレーター入口温度センサー異常（TH5）
1102	吐出温度異常	5107	外気温度センサー異常（TH7）
1301	低圧圧力異常	5110	放熱板温度センサー異常（THHS）
1302	高圧圧力異常	5201	高圧圧力センサー異常
1500	冷媒過充てん	5301	電流センサー / 回路異常（圧縮機用）
4106	自電源 OFF 異常	5305	電流センサー / 回路異常（ファン用）
4230	放熱板過熱保護（圧縮機用）	6500	室内ユニット洗浄操作異常
4240	過負荷保護（圧縮機用）	6602	送信エラー（伝送プロセッサハードウェア異常）
4250	IPM/ 過電流遮断異常（圧縮機用）	6603	送信エラー（伝送路 BUSY）
4255	IPM/ 過電流遮断異常（ファン用）	6606	送受信エラー（伝送プロセッサとの通信異常）
4260	起動前放熱板過熱保護	7101	能力コードエラー
5102	サブクールコイルバイパス出口温度センサー異常（TH2）	7113	機能設定エラー
5103	配管温度センサー異常（TH3）	7117	機種未設定エラー
5104	吐出温度センサー異常（TH4）		

・施工または工事前よくあるエラーコード

エラーコード	不具合内容	不具合内容の説明	対策内容
4102	欠相異常	電源の欠相、または電圧の異常	電源の各相間電圧を確認
4115	電源同期信号異常	電源周波数の異常	電源の各相間電圧を確認
4121	高調波対策機器異常	アクティブフィルタとの通信異常	アクティブフィルタとの配線接続確認 アクティブフィルタの異常確認
4220,4225	母線電圧異常	インバーター母線電圧の異常	電源の各相間電圧を確認
6600	ユニットアドレス二重設定	同一アドレスのユニットが存在している	エラー発生元と同じアドレスのユニットを探して、アドレスの設定を変更する
6607	送受信エラー（ACK 無しエラー）	送信した相手から返事が無い	伝送線の接続確認
6608	応答無しエラー	コマンドの応答が無い	伝送線の接続確認
7100	合計能力エラー	室内ユニットの合計能力がオーバーしている	室内ユニットの形名合計を確認 OC-OS 間の配線、電源を確認
7102	接続台数エラー	室内外伝送線上の接続台数がゼロまたはオーバーしている	室内外伝送線上に接続している室内ユニット台数を確認 室外ユニットの形名確認
7105	アドレス設定エラー	室外ユニットのアドレス設定エラー	室外ユニットのアドレス設定確認
7110	接続情報未設定異常	室内ユニットが正常に接続されていない	伝送線の接続確認
7130	組み合わせ異常	室内ユニットの形名エラー	室内ユニットの形名確認

(3) リモコン

エラーコード	不具合内容	エラーコード	不具合内容
6201 (E1)	リモコン H/W 異常 (EEPROM)	6832	通信送信異常（同期回復異常）
6202 (E2)	リモコン H/W 異常 (RTC)	6833	通信送信異常（ハードウェア異常）
6831	通信受信異常（受信なし）	6834	通信受信異常（スタートビット検出異常）

7. ダクト接続の設置に関するご注意

吸込ダクト取付の場合は、図 8 のように必ずマンホールを設けてください。空気冷却器の清掃時に必要です。吸込ダクトの形状は、ユニットの冷却器に均等に空気が流れるようにしてください。

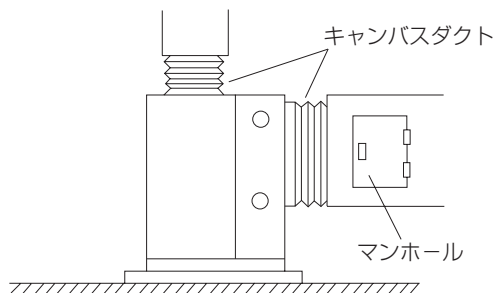


図 8

8. 高圧ガス明細書

本製品は、高圧ガス保安法に基づき、冷媒ガスの圧力を受ける部分の材料、構造を遵守し、圧力試験が実施されています。冷媒ガスの圧力を受ける部分の部品を交換又は修理される場合は、資格（冷凍空調施設工事事業所）のある事業所に依頼されるようお願いいたします。

本製品の保安上の詳細は次のとおりです。

形 名	冷媒	設計圧力 (MPa)		容 器	
		高圧	低圧	管外径 (mm) × 長さ (mm) × 列数 × 段数	主な材料
P1120 形	R410A	4.15	2.21	$\phi 9.52 \times 1430 \times 3 \times 60$	C1220T - OL
P1400 形					
P1600 形				$\phi 9.52 \times 1650 \times 3 \times 60$	

MEMO

MEMO

愛情点検



●長年ご使用のエアコンの点検を！

エアコン補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後9年です。

ご使用の際、
このようなことは
ありませんか？

- 運転音が異常に大きくなる。
- 室内ユニットから水が漏れる。
- 電源が頻繁に落ちる。
- その他の異常や故障がある。

ご
使
用
中
止

故障や事故防止のため、電源
を切り、必ず販売店に点検・
修理をご相談ください。

サービスをお申し付けになるときは次のことをお買い上げの販売店にご連絡ください

- ・エアコンのタイプ：
- ・エアコンの形式名：
- ・ご購入日：
- ・異常の内容：できるだけ詳しく。点検表示灯が点滅したときは故障記号を…E1～
- ・ご住所：
- ・ご氏名：
- ・電話番号：
- ・訪問ご希望日時：

■お客様メモ

ご購入店名：

電話番号：

担当者：

ご購入日： 年 月 日

お客様ご相談窓口

アフターサービスはお買い上げ店にご依頼ください。なお、転居その他の理由でお買い上げ店にアフターサービスを依頼することができない場合は、下記のお客様相談センターにご相談ください。（電話番号は予告なく変更することがありますのでご了承下さい。）

三菱重工冷熱株式会社 空調サービス本部

お客様センター（修理受付・部品・技術相談）



0120-975-365



三菱重工サーマルシステムズ株式会社
三菱重工冷熱株式会社

〒108-8215 東京都港区港南2-16-5
〒108-0023 東京都港区芝浦2-11-5 五十嵐ビルディング

PRC012D006
WT08610X01